



中学校 保健学習の 指導と評価

— 授業計画の作成から評価までの実際 —



まえがき

近年における都市化、情報化など社会環境や生活様式の変化、少子化などが子どもの身体的活動・遊びの減少、食生活の変化、精神的負担の増大、人間関係の希薄化などをもたらし、さらには家庭や地域の教育力の低下をもたらすなど子どもの心身の健全な発育・発達に様々な影響を与えています。各学校においては、このような複雑、多様化している子どもの心身の健康課題に対応するとともに、生涯にわたって健康で安全な生活を送るための基礎を培うことが一層重要となっています。

とりわけ、学校における健康教育の中核であり、全ての子どもが学ぶべき基礎・基本としての保健学習では、的確な思考・判断に基づいた適切な意志決定と行動選択など健康の保持増進のための実践力の育成を重視した授業（指導と評価）の展開が求められています。

平成14年度より小・中学校で全面实施、15年度より高等学校で学年進行で実施されている新学習指導要領では、児童生徒が健康の大切さを認識し、自らの健康を管理し、改善していくような資質や能力の基礎を培い、生涯を通じて心身の健康を保持増進するための実践力を育成することを目標に、新たに小学校第3・4学年から保健領域が設定されるなど、保健学習の内容充実が図られています。併せて、新指導要録に基づく目標に準拠した評価・評定、それを可能にする観点別学習状況の評価など、子どもに生きる力をはぐくみ、学習や指導に役立つ信頼できる評価の工夫も求められています。

本会の「保健学習推進委員会：委員長 宇都宮大学教授和唐正勝」では、このような状況を踏まえ、各学校における保健学習の指導と評価の充実に資するため、小学校、中学校及び高等学校の授業（指導と評価）について、授業研究等を実践しながら、研究を進めてきました。

本書は、その成果を「中学校保健学習の指導と評価」としてまとめ、発刊したものです。平成13年9月に発刊した「実践力を育てる中学校保健学習のプラン」と併せて、各学校における保健学習充実のため、ご活用いただければ幸いです。

末尾となりましたが、本書の作成に当たってご尽力いただきました推進委員の先生方、授業研究等にご協力いただいた各学校、ご指導いただきました教育委員会など関係の皆様方に心から感謝申し上げます。

平成16年2月26日

財団法人日本学校保健会
会長 矢野 亨

目次

まえがき

本書の構成と活用について

1 章 保健学習における基本的な評価の考え方	1
1 基本的な評価の考え方ーこれからの評価のイメージー.....	2
2 評価の質問・疑問 (Q&A)	4
Q 1 これからの評価で大切なことは、どんなことですか.....	4
Q 2 忘れ物をしたことで、「関心・意欲・態度」の観点の評価はできますか	5
Q 3 保健学習では「技能」の観点の評価をしないのですか.....	6
Q 4 3 観点の評価を毎時間全員に行なうのですか.....	7
Q 5 生徒が行なった「自己評価」を、指導にどのように生かしたらいいですか.....	8
Q 6 評価の信頼性を高めるためには、どのようなことをしたらいいですか.....	9
Q 7 保健学習の評価について、生徒への説明は必要なのですか.....	10
2 章 評価計画の立案及び評価の実施	11
1 単元の授業開始前 ~単元の評価規準を作りましょう 授業内容・指導計画にそった評価の方法を決めましょう~.....	13
2 単元の授業実施中 ~評価を指導に生かしましょう~.....	17
3 単元の授業終了後 ~観点ごとの評価の総括をしましょう~.....	18
4 授業計画から実践、評価までの流れ.....	20
3 章 評価・評定の方法について	21
1 評価・評定の基本的な捉え方について.....	22
2 「観点別学習状況の評価」から「評定」への流れ.....	23
3 具体的な「総括」の進め方.....	24
4 保健分野の評価のあり方と体育分野との評価の関わり (Q&A)	29
4 章 保健学習で多用される評価方法とその活用法： 種類、各評価方法の特性	31
1 多様な評価方法を活用する意義.....	32
2 評価方法の特性、留意点.....	32
3 ペーパーテストの活用について.....	34
5 章 授業実践	37
【実践1】 第1学年「心身の機能の発達と心の健康」	39
1 単元名.....	39
2 目 標.....	39

3	評価と支援のポイント	39
4	単元の評価規準	41
5	学習活動と評価方法の計画	42
6	展開例	44
7	観点別学習状況の評価の進め方	46
8	評価を進める上での留意事項	47
9	教師用補助簿と記入上の留意事項例	48
10	資料・ワークシート、テスト	49

【実践2】 第2学年「健康と環境」

1	単元名	51
2	目 標	51
3	評価と支援のポイント	51
4	単元の評価規準	52
5	学習活動と評価方法の計画	53
6	展開例	56
7	観点別学習状況の評価の進め方	58
8	評価を進める上での留意事項	59
9	教師用補助簿－1	60
10	教師用補助簿－2	61
11	参考資料 各時間の学習活動における評価規準の具体例	63

【実践3】 第3学年「健康な生活と疾病の予防」

1	単元名	64
2	目 標	64
3	評価と支援のポイント	64
4	単元の評価規準	65
5	学習活動と評価方法の計画	66
6	展開例	68
7	観点別学習状況の評価の進め方	70
8	評価を進める上での留意事項	71
9	観点別学習状況の評価の総括	71
10	ロールプレイングの進め方と評価	72
11	ワークシート等	75

本書の構成と活用について

中学校の授業においては、評価の在り方が大きく変わりました。それに伴い、評価に関する様々な資料が出版されています。しかし、中学校保健学習に焦点を当てたものは少なく、それが、中学校保健学習の評価のみならず、評価と表裏一体である指導の改善に大きな障害となっています。本書は、そのような課題に応えようとしたものです。評価について具体的に詳しく述べていますが、指導との一体化にもかなり配慮して記述しました。

本書は次のような構成になっています。必要な箇所からお読みになり、大いに活用してください。

①全体は、大きく、考え方（理論編）と実際（授業実践編）に分かれています。

- 理論編ではわかりやすさを図りました。図やイラストを多用するとともに、随所に、素朴な疑問をとる、課題に対して答える、記述をまとめるなどを行うナビゲーター役を設けました。
- 実践編では3つの授業を紹介しています。単元、小単元、1～2時間の授業の各レベルでの評価を示しました。授業では写真を多用し、評価と指導の一体化を図りました。

②1章では、まず、新たな評価の考え方について取り上げています。

- 新たな評価を実感できることを図り、イラストで表現しました。
- 新たな評価に関わる素朴な疑問とそれに対する応答を、保健体育教師のやり取りとして表しました。

③2章と3章では、評価の過程、すなわち計画・実施・評価・評定を取り上げています。

- 過程を流れ図で表わし、手立てや留意点は具体的に示しました。
- 中学校における重大課題である評定については、大きく2つの方法について、集計例と併せて紹介しました。

④4章では様々な評価方法を取り上げました。

- 学力をより正確に測るためのテストの例、敬遠されがちな記述テストの採点例も紹介しました。

⑤5章では、各学年の授業実践について、評価を中心に紹介しました。

- 1学年「心身の機能の発達と心の健康」：異性との関わりに関する事例を用いて、小グループによるディスカッションに焦点を当てた授業
- 2学年「健康と環境」：小グループの課題学習による授業
- 3学年「健康な生活と疾病の予防」：喫煙、飲酒、薬物乱用防止に関わり、小グループでのロールプレイングに焦点を当てた授業

I

保健学習における基本的な 評価の考え方

これからの評

保健学習で目指す生徒像 ～実践力の育成～

自ら健康で安全な生活を実践するため、進んで学習
科学的に考え、選択すべき行動を適切に判断してい
課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を

実践力を形成するための 学習方法の工夫

ブレインストーミング
課題学習 事例による学習
ロールプレイング 実験 等

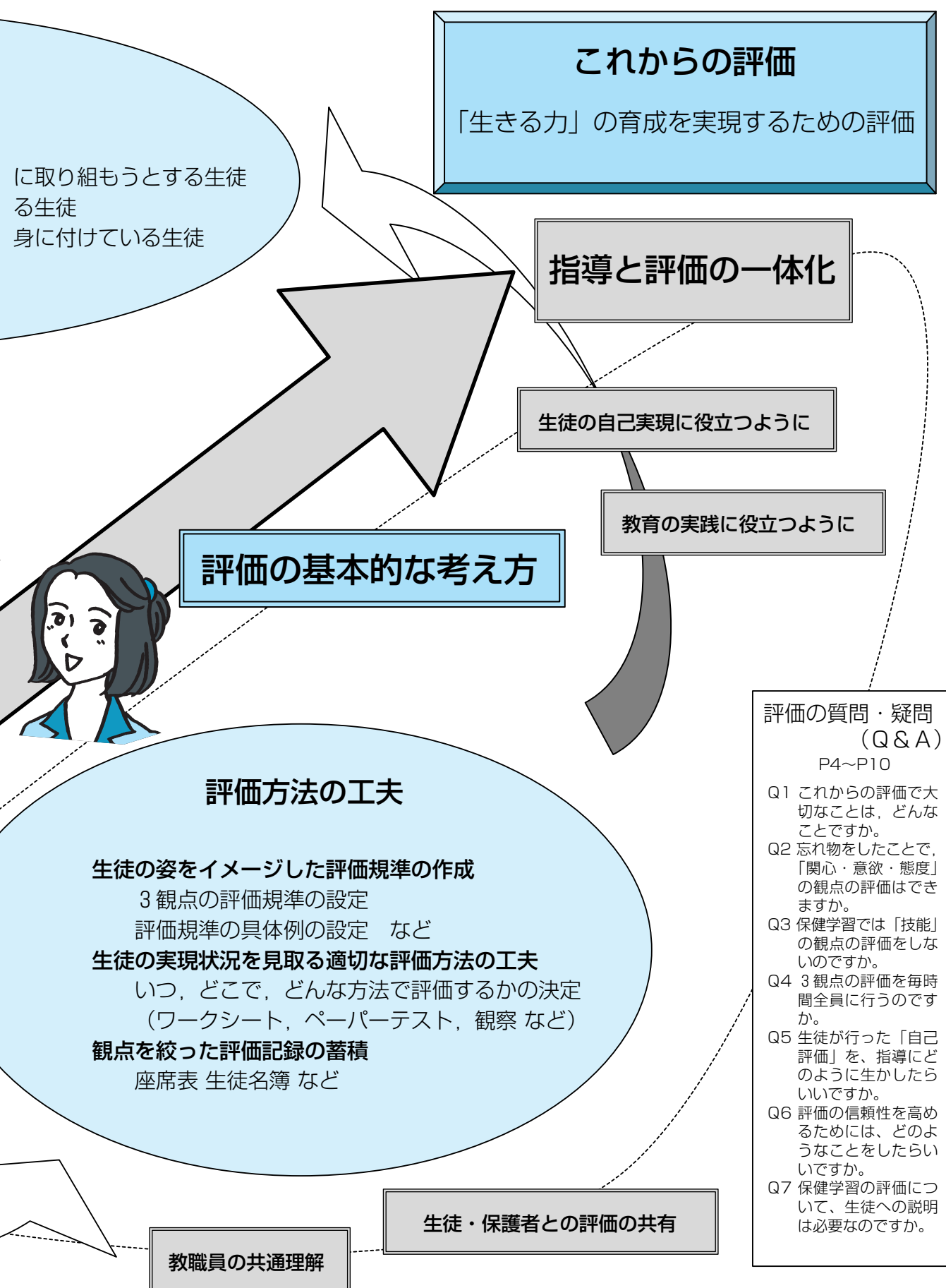
評価の問題点

知識の量のみを測るような評価
が行われていないか。

目標に準拠した評価

個人内評価の重視

価のイメージ



2 評価の質問・疑問 (Q&A)

Q1 これからの評価で大切なことは、どんなことですか



「健康な生活と疾病の予防」の授業をこれから始めるけど、「課題学習」や「ロールプレイング」を取り入れた参考になる事例はないかな。



日本学校保健会の冊子（注1）に学習方法を工夫した事例が書いてあったわ。また、指導と評価の両方について考えて、学習計画、評価計画を立てておくことが大切だと聞いたよ。



そういえば、教育課程審議会答申（注2）を見たことがあるけど、評価って、よりよい指導に役立つようにすることと、生徒のよさや可能性を評価し、豊かな自己実現に役立つようにすることと書いてあったな。



「評価のための評価」でなく、保健学習の内容を確実に習得することを目指すことから、指導と評価を一体として進めることや自ら学ぶ意欲や問題解決の能力を伸ばすよう、自己評価を工夫することも大事ね。

（注1）「実践力を育てる中学校保健学習のプラン」（日本学校保健会発行 平成13年9月）

（注2）「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」

（教育課程審議会 平成12年12月）

評価の機能と役割

「評価の機能と役割は、一つには、各学年、各学校段階等の教育目標を実現するための教育の実践に役立つようにすることであり、もう一つには、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」の育成を目指すこれからの教育の在り方から考えて、児童生徒一人一人のよさや可能性を積極的に評価し、豊かな自己実現に役立つようにすることである。これは、学校や教員が、指導計画や指導方法、教材、学習活動等を振り返り、よりよい指導に役立つようにすることであり、評価とは、児童生徒のための評価であると同時に、学校や教員が進める教育自体の評価でもあるとも言える。このようなことから、指導と評価は表裏一体をなすものであり、学校においては、学習指導と評価が常に一体となって行われることが求められている。」

「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」（教育課程審議会答申）（平成12年12月）

※下線部は本委員会による。（p10まで同様）

Q2 忘れ物をしたことで、「関心・意欲・態度」の観点の評価はできますか



「傷害の防止」の授業で、A男とB子が教科書を忘れてきたけど、意欲が足りないね。「努力を要する」と教師用補助簿に記載しておかないといけないな。



忘れ物をしたことだけで、「関心・意欲・態度」の評価をするのはおかしいんじゃないの。授業への学習意欲はどうだったの。



「事故はなぜ起こるか」について、A男は資料を見ながら、意欲的に調べていたわ。



学習に対する「関心・意欲・態度」を評価するのだから、忘れ物をしたとか、挙手の回数が多いとか、表面的な状況だけで評価できないね。日常生活を振り返りながら課題を発見しようとしているかなどを教師の観察により評価していくといいよ。

○ この（「関心・意欲・態度」）観点は、本来、それぞれの教科の学習内容や学習対象に対して関心を持ち、進んでそれらを調べようとしたり、学んだことを生活に生かそうとしたりする資質や能力を評価するための観点である。

しかし、その評価については、情意面にかかわる観点であることなどから、目標に準拠した評価であることが十分理解されていなかったり、忘れ物や授業中の挙手、発言の回数といった表面的な状況のみで評価されるなど、必ずしも適切とは言えない面も見られる。また、評価が教員の主観に頼りがちであるという指摘もある。

「関心・意欲・態度」の観点の評価に当たっては、例えば、態度や行動、発言内容の観察による評価、作品の評価、児童生徒の自己評価や相互評価、予習・復習の状況の評価など多様な評価方法により継続的・総合的に行う必要がある。

「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」（教育課程審議会答申）（平成12年12月）

Q 3 保健学習では「技能」の観点の評価をしないのですか



「喫煙と健康」の学習で、たばこを勧められた場合に適切に対処する必要があることを理解させるため、ロールプレイングを行なったけど、技能の評価をしなくていいのかな。



保健体育科保健分野の評価の観点に「技能」がないから、評価してないわ。



でも、保健体育科の目標に「実践力の育成」とあったけど、保健学習でたばこを勧められたら断ることができるようにしなければならないのではないですか。



目標で示されている「実践力」とは課題解決や適切な意志決定・行動選択に役立つ資質や能力であり、何か技能を身に付けることではないよ。



そうか、ロールプレイングは、技能の習得をねらいとするのではなく、具体的事例を通して考えたり、理解を深めたりするために行なうんだ。



技能の習得を目指すとなると、保健学習の時間だけでは難しいと思うわ。学級活動などの時間と関連づけて行なうといいよ。

- 「知識・理解」についても、単に覚え込むものととらえるのではなく、児童生徒が自ら体験して実感を持って学ぶことにより、学習や生活に生きて働くものととらえる必要がある。

「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」（教育課程審議会答申）（平成12年12月）

- 分野別の評価の観点の趣旨

観点 \ 分野	保健分野	体育分野
健康・安全への関心・意欲・態度	自他の心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践するため、進んで学習に取り組もうとする。	省略
健康・安全についての思考・判断	自他の心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に考え、選択すべき行動を適切に判断している。	省略
健康・安全についての知識・理解	健康・安全の意義を理解するとともに、心身の機能の発達や心の健康、健康と環境、傷害の防止、健康な生活と疾病の予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。	省略

「小学校児童指導要録，中学校生徒指導要録，高等学校生徒指導要録，中等教育学校生徒指導要録並びに盲学校，聾学校及び養護学校の小学部児童指導要録，中学部生徒指導要録及び高等部生徒指導要録の改善等について（通知）」別添 2－1 各教科・各学年の評価の観点及びその趣旨より作成

Q 4 3 観点の評価を毎時間全員に行なうのですか



毎時間、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「知識・理解」の3観点全てについて、生徒の実現状況を教師用補助簿に記録できるのかなあ。



子どもの状況を見取りながら指導をしているわけだから、毎時間全ての観点についてを補助簿に記録できるわけないよ。



1つか2つの評価規準について記録できればいいですね。



「健康と環境」の授業で、思考力、判断力を育てることに重点を置いた授業をしているけど、例えば、授業中は、「関心・意欲・態度」の観点の規準をもとに、十分満足できる状況の生徒、努力を要する生徒を記載する程度だよ。



授業の重点とした「思考・判断」についての評価は、どうしているのですか。



「ワークシート」に記載された内容や授業後、記憶している学習の様子を思い出して補助簿に書いているよ。教室から職員室に戻る間に、生徒の学習の様子を思い出すのが私にはいいなあ。

○ 第7章 保健体育科 第3 単元の評価に関する事例 II 保健分野

4 観点別評価の進め方 (1) 基本的な考え方

単元を通して学習活動における具体的評価規準にあげた9つの評価を実施する必要がある。その際、9つ全てを毎時間評価することには無理があるため、取り上げる題材、授業の進め方、学習形態等によって選択したり、重点化するなどの工夫をする必要がある。

「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（中学校）」

（国立教育政策研究所教育課程研究センター）（平成14年2月）

Q 5 生徒が行なった「自己評価」を，指導にどのように生かしたらいいですか



ワークシートに「本時のめあてを持ち，意欲的に学習を進めたか」という自己評価の欄を設けているけど，「大変よくできた」に○をつけたA君を，「関心・意欲・態度」の評価規準について，十分満足できる状況と評価していいのかな。



生徒は，過小評価したり，過大評価したりする場合があるので，教師がとらえた実現状況と照らし合わせる必要があるわ。



わたしは，A君のことをよく見ていたのですが，A君の評価と違ってきているので，A君と学習について話をしてみようかな。



教師の評価と生徒の自己評価がずれていたら，本人に聞いてみるといいね。自己評価は，これからの学習への意欲付けに役立てることと，観点別評価のための参考資料にするといいわ。

- 児童生徒による自己評価や児童生徒同士の相互評価などを生かすことや，保護者による評価，教育活動に協力した地域の人々などによる評価を参考にすることなども有効である。

とりわけ，自己評価については，自ら学ぶ意欲などを見る上で有効であるばかりでなく，児童生徒が自分自身を評価する力や他人からの評価を受け止める力を身に付け，自己の能力や適性などを自分で確認し，将来を探究できるようにするためにも大切である。

「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」（教育課程審議会答申）（平成12年12月）



Q 6 評価の信頼性を高めるためには、どのようなことをしたらいいですか



評価規準をもとに、生徒の実現状況について評価記録を取っているけど、適切に評価しているのかな。



そうね。いくら学年で評価規準が同じだといっても、一人で記録を取っているのは不安になることがあるわ。今度、わたしの授業と一緒に見て、お互いに評価記録を取ってみない。



はい。この次は、わたしの授業も一緒に見てください。ところで、以前、観点別学習状況の評価の観点ごとの総括をしたとき、どうも、Bさんの印象と評価がずれていないのかと感じたことがあったのですが。



評価計画にもとづいて、評価記録を残して総括したのだから、その結果を否定することはないけど、さらに信頼性・客観性を高めていくため、「評価規準が適切であったか」「評価方法が適切であったか」「総括の仕方が適切であったか」という点から見直していくことは大事だよ。

- 評価の信頼性を高めるためには、評価規準、評価方法の見直しとともに、評価に関する情報の共有や交換により、評価を行なう教員の判断や裁量を共通的なものとしていくこと、評価に関する情報を児童生徒や保護者に対して適切に提供していくことが重要である。これらのことは、答申において示された「評価する人、評価される人、それを利用する人が、互いにおおむね妥当であると判断できることが信頼性の根拠として意味を持つ」という考え方に合致するものである。

「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（中学校）」

（国立教育政策研究所教育課程研究センター）（平成14年2月）

Q 7 保健学習の評価について、生徒への説明は必要なのですか



学校であまり手を洗わないと、保健学習の評価は下がるのですか？



「健康な生活と疾病の予防」について学習しているけど、評価について説明していなかったね。疾病の予防について自分の生活を振り返って課題を発見しようとしていたり、学んだことを日常生活に当てはめて考えていたり、疾病予防の仕方について知っているかなどについて、学習の様子や学習プリントなどから評価しているんだ。手を洗うことは、疾病の予防には大切なことだけど、保健学習の評価としては見ていないよ。



ところで、評価ってなぜするのですか？



学級の中で順番を決めるためにしているわけではないよ。みんなが、よく理解しているかなどを評価して、もし、理解していなければ教え方を変えたりするためだよ。また、学習後は通知簿などで知らせて、みんなの学習を振り返ってもらうためだよ。



ふう～ん。結核の集団感染のことが新聞に載っていたので、調べてみようかな。これって、関心があるって評価してもらえるの。



健康に関する内容について関心をもって調べることは、大変いいことだね。それを生かして、授業中もよく調べたり、発表したりしたら関心があると評価できるね。

- 各学校においては、教育目標や教育計画等を年度当初に保護者や地域住民に説明するとともに、その達成状況等に関する自己評価を実施し、保護者や地域住民に説明するように努めること。

「今後の地方教育行政の在り方について」（中央教育審議会答申）（平成10年9月）

- 評価が児童生徒の学習の改善に生かされるようにするためには、学習の評価を、日常的に、通知簿や面談などを通じて、児童生徒や保護者に十分説明し、学習の評価を児童生徒と共有していくことが大切である。

また、学習の結果としての評価の情報とともに、どのような観点や規準で評価を行なうのか、どのような方法で評価を行なうのかといった学校としての評価の考え方や方針を、教育活動の計画などととともにあらかじめ説明することも大切である。

「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」（教育課程審議会答申）（平成12年12月）

II

評価計画の立案及び評価の実施



1 単元の授業開始前 ～単元の評価規準を作しましょう 授業内容・指導計画にそった評価の方法を 決めましょう～

(1) 評価規準を作成しましょう

学習指導要領に示された単元の目標や内容をもとに、国立教育政策研究所教育課程研究センターや各教育委員会等で研究開発されたものを参考にしながら、単元における観点別の評価規準の作成、また、単元における観点別の評価規準の具体例（学習活動における具体的評価規準）を作成していきます。



当冊子の授業事例も、国立教育政策研究所教育課程研究センターが提示した評価規準を参考とし、評価規準の作成を行いました。ご参照ください。（※授業事例 p41, p51, p65）

たとえば「健康と環境」の単元については、学習指導要領の内容をもとに、国立教育政策研究所教育課程研究センターから次のような参考例が示されています。

学習指導要領「単元：健康と環境」より

(2) 健康と環境について理解できるようにする。

- ア 身体には、環境に対してある程度まで適応能力があること。また、快適で能率のよい生活をおくるための温度、湿度や明るさには一定の範囲があること。
- イ 飲料水や空気は、健康と密接なかわりがあることから、衛生的な基準に適合するよう管理する必要があること。
- ウ 人間の生活によって生じた廃棄物は、衛生的に、また、環境の保全に十分配慮し、環境を汚染しないように処理する必要があること。



「学習指導要領」をもとに「目標に準拠した評価」のための評価規準がつくられます。なお、評価規準とは、「おおむね満足できる」生徒の学習状況（B）を表現するものです。



評価規準：国立教育政策研究所教育課程研究センター作成（平成14年2月）

観点項目	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 知識・理解
単元の評価規準	身体对环境に対する適応能力、空気・飲料水の衛生的管理や廃棄物の適切な処理と人間の健康について関心を持ち、仲間と協力して資料を集めたり、意見を交換しながら課題を見つけ、意欲的に学習しようとしている。	身体对环境に対する適応能力、空気・飲料水の衛生的管理や廃棄物の適切な処理と人間の健康について、自分の知識や経験、資料、仲間の意見や考えなどをもとに課題を設定し、適切な課題解決の方法を考え、判断できる。	人間の健康は環境と深くかかわって成立しており、身体には環境に対する適応能力があること、空気・飲料水の衛生的管理や廃棄物の適切な処理が必要であることを科学的に理解し、日常生活の課題解決に役立つ知識を身に付けている。



「評価規準」をもとに「生徒の学習の実現状況を的確に把握する」のための評価規準の具体例がつくられます。



評価規準の具体例：国立教育政策研究所教育課程研究センター作成（平成14年2月）

観点 項目	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 知識・理解
単 元 の 評 価 規 準 の 具 体 例	① 健康と環境の関わりについて資料を見たり，自分の日常生活を振り返りながら課題をさがそうとしている。 ② 健康と環境の関わりについて教師や仲間と共に活動しようしたり，教科書などの資料を読んだりして課題の解決に取り組み，課題について調べようとしている。 ③ 集めた資料を活用したり，健康と環境に関する仲間の意見を聞いたりしながら，自分の考えや意見をまとめ，発表しようとしている。	① 健康と環境について，自分の日常生活等を振り返り，問題点を見つけ課題を選ぶことができる。 ② 教師や仲間と共に，自分の経験や地域の様子，教科書などの資料をもとに，予想したり整理したりして課題解決の方法を選ぶことができる。 ③ 健康と環境について学習したことを日常生活にあてはめることができる。	① 人間の健康は環境と深くかかわって成立しており，身体には環境に対する適応能力があることを知っている。 ② 人間の生命の維持や健康に密接に関わりのある空気や飲料水が，衛生的に管理されていることを知っている。 ③ 心身の健康を保持増進するため，生活に伴って生じる廃棄物を適切に処理し，環境を衛生的に保つ必要があることを知っている。

各学校において，このような評価規準また評価規準の具体例を作成し，学校の学習指導の中に評価活動を明確に位置づけていきます。観点別のこのような評価規準また評価規準の具体例を作成することにより，生徒の各単元目標に対する学習の実現状況を的確に把握することが可能となり，その評価の結果を後の指導に生かしていけるのです。

「指導と評価の一体化」のためにも評価規準また評価規準の具体例の作成は不可欠です。



なお，評価規準の具体例については，例えば授業一時間ごとの細部にわたる設定をするのではなく，無理なく評価でき，それを後の指導に生かすことができる範囲のなかで設定されるべきでしょう。また，評価規準また評価規準の具体例については，「おおむね満足できる」(B) の状況を想定し作成していきます。

(2)「評価規準」また「評価規準の具体例」の文章構成や表現の特徴を把握しましょう

① 文章構成の特徴

評価規準また評価規準の具体例は、いくつかの文章構成上の特徴を持ちながら作成されます。

観点「関心・意欲・態度」また「思考・判断」においては、まず「学習の内容」が示され、次に「活動状況の例示」となり、最後に「実現状況を表す動詞（観点の特徴的な動詞を含む記述）」でまとめられます。

観点「知識・理解」については、まず「学習の内容」が示され、次に「実現状況を表す動詞（観点の特徴的な動詞を含む記述）」でまとめられます。

国立教育政策研究所教育課程研究センターが提示した「単元：健康と環境」の評価規準を、文章構成上の特徴のもとに分類すると次のようになりますが、このような特徴を理解することは、各学校における評価規準また評価規準の具体例の作成にあたっても、参考になるものと思われます。

「評価規準」また「評価規準の具体例」の文章構成 ～その特徴～

＜評価規準：「健康と環境」より＞

観点項目	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 知識・理解
学習の内容	身体の環境に対する適応能力、空気・飲料水の衛生的管理や廃棄物の適切な処理と人間の健康について…	身体の環境に対する適応能力、空気・飲料水の衛生的管理や廃棄物の適切な処理と人間の健康について…	人間の健康は環境と深くかかわって成立しており、身体には環境に対する適応能力があること、空気・飲料水の衛生的管理や廃棄物の適切な処理が必要であることを…
活動状況の例示	関心を持ち、仲間と協力して資料を集めたり、意見を交換しながら…	自分の知識や経験、資料、仲間の意見や考えなどをもとに…	
実現状況を表す動詞	課題を見つけ、意欲的に学習しようとしている。	課題を設定し、適切な課題解決の方法を考え、判断できる。	科学的に理解し、日常生活の課題解決に役立つ知識を身に付けている。

(※「おおむね満足できる」の状況を示す。)

(※なお、上記は単元「健康と環境」の評価規準をもとに分類した。多少の差異はあるものの評価規準の具体例についても、このような文章構成上の特徴をもっている。)

評価規準や評価規準の具体例の作成では、
文章構成の特徴を意識しましょう。



② 文末表現の特徴

評価規準また評価規準の具体例は、その文末記述において、生徒の学習の実現状況を適切に評価するための観点別の特徴的な『動詞（実現状況を表す動詞）』が用いられて表現されます。

国立教育政策研究所教育課程研究センターが提示した評価規準また評価規準の具体例を参考にして、文末表現の特徴を観点別に分類すると次のようになりますが、このような特徴を理解することは、各学校における評価規準また評価規準の具体例の作成にあたっても、参考になるものと思われます。

「評価規準」また「評価規準の具体例」の文末表現 ～その特徴～

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 知識・理解
表現 (例)	さがそうとしている 集めたり、調べようとしている 発表しようとしている 発見しようとしている まとめようとしている 取り組もうとしている	見つけることができる 予想したり、整理したりすることができる 当てはめることができる 分析することができる 選択することができる	知っている (知識を)身に付けている 説明できる

なお、評価規準の具体例については、あくまでも「生徒の学習の実現状況を適切に評価するための観点の具体化」を求めたものであることから、評価を容易にするためにも観点別評価のその観点名（関心・意欲・態度、思考・判断、知識・理解）を、そのままの形・言葉では用いることは適切ではありません。つまり、評価規準の具体例の文末表現としては、例えばイの思考・判断の観点において、「思考することができる」や「判断することができる」という記述、またウの知識・理解の観点において、「理解できる」という記述などは不適切であり、具体化されたものを示す必要があります。

また、否定的な表現ではなく肯定的な表現が望ましいと思われます。

評価規準や評価規準の具体例の作成では、
文末表現の特徴も意識しましょう。



(3) 授業内容・指導計画にそった評価の方法・計画を決めましょう

観点別の評価規準また評価規準の具体例を作成した後は、そこに示した内容に対応する実際の生徒の学習状況を把握するための「評価の方法」を、ある程度決めておく必要があります。

評価の方法は、ペーパーテストによる評価、ワークシートによる評価、学習カード、観察、面接、質問紙、作品、ノート、レポートによる評価など様々な方法があり、それぞれに特徴を持っています（5章 p31～36参照）。それらの特徴を踏まえ、生徒の学習状況を適切に把握するために、どの観点をどの方法で評価するのか、また授業中あるいは授業後においてどのタイミングで評価をしていくの

かを、授業開始前にあらかじめ計画を立てておきましょう。



評価の方法・計画については、実践記録p42, p53, p66に記載されています。

評価を適切に行うということを目指せば、できるだけ多様な評価を組み合わせを行い、数多くの情報を得ることが重要となることはいうまでもありません。しかしながら、授業中において授業者がその「評価」にのみ意識をとられすぎて、本来的な教育の目的が十分に果たせなくなるようなことは避けなければならず注意が必要です。実際、一時間の授業時間内において数多くの評価を行うことは無理があるため、授業の内容や学習形態に応じて、単元内の授業ごとに評価項目を重点化させ、単元全体の枠のなかで各観点バランスよく評価を実施することも現実的な評価の方法であると考えられます。つまり、一時間のなかで「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「知識・理解」のすべてを複数回評価していく場合もあるでしょうが、授業の内容や学習形態に応じて、この一時間は「関心・意欲・態度」を中心に評価し、次の二時間目は「思考・判断」を中心に評価するという場合があったりすることは現実的なことでもあるということです。

加えて、評価のすべてを授業中だけで行うということは無理があることから、生徒のワークシート等の書き込み記録をもとにして、授業中ではなく授業後に評価するという方法もよく用いられます。いずれにしても、授業のどの場面で、また授業後において、どのような方法により、生徒の学習の実現状況の評価していくかについて、あらかじめ計画を立てておくことは必要であり、そのことにより適切な評価が可能となるものと思われます。

もちろん評価を行おうと計画した場面以外において、生徒がすぐれた学習を多様に深めていくことは日常的によくあることです。そのような時はその生徒の特徴的な学習の状況について、補助簿等を有効に使い記録を残し、その後の評価に活用していきましょう。

2 単元の授業実施中 ～評価を指導に生かしましょう～

生徒の学習の状況について、授業前に設けた「評価規準」及び「評価規準の具体例」にそって評価を行いながら授業を進めていきます。

例えば、授業中に「観察」によって生徒の学習状況の評価していく場合は、補助簿等を有効に活用しながら、「十分満足できる」また「努力を要する」状況の生徒を中心に記録を残していきます。加えて、その他、目に留まった顕著な生徒の学習の様子を記録し、それをその後の学習支援や評価に生かします。

また、生徒個人のワークシートや学習カード、またペーパーテスト等の結果についても、単元の途中において可能な限りの評価を行い、評価規準および評価規準の具体例に照らしたそれぞれの生徒の実現状況を記録していきます。

当然のことながら、この記録は単にいわゆる「評定」のためだけに行うものではなく、その場面の生徒の学習の状況を的確に捉え、その評価をその後の指導に生かすために行うものです。つまり、い

いわゆる「努力を要する」の生徒には、その後の指導により「おおむね満足」の状態まで高まっているような教育支援を、また「おおむね満足」の生徒には、その後の指導により「十分満足」の状態まで高まってくような教育支援を、また「十分満足」の生徒に対しても、その後の指導によりさらにその生徒の学習が発展的に高まっていけるような教育支援を行なうための「評価」であることを常に意識したいものです。

「指導と評価の一体化」を心がけましょう。



例えば「観察」での評価において、「関心・意欲・態度」の観点について「努力を要する」状況の生徒を把握した場合は、教師はこれまで以上に積極的にその生徒に関わるなどして、その生徒の学習に対する「関心・意欲・態度」を向上させる指導が求められます。加えて「生徒個人のワークシートや学習カード」での評価において、例えば「思考・判断」の観点について「努力を要する」状況の生徒を把握した場合は、教師はそのワークシートへのコメントの書き込みに工夫を加えたり別途の添付資料を付け加えて提供したりすることで、その生徒の思考活動を活性化させたり深めさせたりする指導が求められます。



「努力を要すると評価した生徒への指導の手立て」に関しては、実践記録p47, p59, p70に記載されています。

3 単元の授業終了後 ～観点ごとの評価の総括をしましょう～

(1) 単元の授業終了後における観点ごとの評価の総括

単元における授業終了後、教師用補助簿に記録された授業時間ごとの観点別評価や、定期テスト等の結果を踏まえ、その単元における生徒の観点別学習状況の評価の総括を行います。

観点別学習状況の評価では、「十分満足できると判断されるもの」を◎と、「おおむね満足できると判断されるもの」を○と、「努力を要すると判断されるもの」を△として評価が蓄積されますが（この◎、○、△の記号は便宜的なものであり、学校・教師によってこれが順に○、なし、✓など様々です）、例えばその単元の「関心・意欲・態度」の評価結果が「◎、◎、◎、○、○」であった場合、その単元の「関心・意欲・態度」の評価をAと総括するという作業を行う必要があるわけです。

単元における観点ごとの評価の総括の方法については、3章（p21～30）の『評価・評定の方法について』が参考となります。



「単元における観点ごとの評価の総括」に関しては、実践記録p48, p60, p71に記載されています。学校の特色により、それぞれ特徴的な方法で総括が行われています。

学校で決定した総括の方針に基づきながら
「単元における観点ごとの評価の総括」及び
「学年末（学期末）における評定」を行いましょう。



(2) 学年末（学期末）における評定

学年末や学期末において、単元における観点ごとの評価の総括を、今度は「評定」として総括する作業が必要となります。なお「保健体育」の評定は、「保健分野」と「体育分野」の評価が集計された形で行われます。

さて、単元の終了時の「評価の総括」においては、生徒の観点別学習状況は3段階で評価が行われていますが、「評定」については5段階で評価されるものとなっていますので、学校の方針によりいくつかある方法のうちからひとつが決定され換算作業が行われていきます。保健体育であると4観点の評価が行われるわけですが、この時「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」が、その順で「A, A, A, A」「A, A, A, B」であった場合、保健体育の評定は「4」または「5」となっていきます。

●中学校の観点別学習状況 ～3段階の評価～

十分満足できると判断されるもの	A
おおむね満足できると判断されるもの	B
努力を要すると判断されるもの	C



「評定」では「3段階」の評価を「5段階」の評価に
換算する必要があります。



●中学校の評定 ～5段階の評価～

十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの	5
十分満足できると判断されるもの	4
おおむね満足できると判断されるもの	3
努力を要すると判断されるもの	2
一層努力を要すると判断されるもの	1

観点別学習状況の評価を「評定」への総括する場合の具体的な換算方法については、3章p24の『3 具体的な「総括」の進め方』をご参照ください。

4 授業計画から実践，評価までの流れ

単元の授業開始前	授業内容・指導計画を構想・決定する過程のなかで，単元の評価規準を作っていきます。また，授業内容・指導計画にそった評価の方法を決めましょう。 1 単元目標は何ですか。 2 授業時数は何時間計画ですか。 3 評価規準は決めましたか。 ① おおむね満足という規準はどのような動きや発言をもってそう判断しますか。 4 単元の授業内容・指導計画は？ 評価の方法は。 ① 各時間の指導形態や内容は決まりましたか。 ② 単元の授業内容・指導計画の中で，評価方法と規準は考えてありますか。 ③ 毎時間の評価記録の取り方は決まっていますか。 ④ 最終的な評価と評定の出し方は考えていますか。 ⑤ 授業中の配慮事項や「努力を要する」生徒への支援を考えましたか。 5 教材の準備をしましょう ① ワークシートや教材・教具，協力を依頼する人への事前連絡等済ませましたか。						
単元の授業実施中	さあ授業です。計画通りにスタートしても，いつも予定通りに進むとは限りませんが，それぞれの時間の「評価」をその後の「指導」に生かしていくことが大切です。 指導の際の配慮事項 ・生徒の動きの面では ・生徒への教員からの配慮としては ・場の設定では ・評価のポイントは 毎時間の評価と評価の記録 毎授業後に評価ポイントを記録 <table> <tr> <td>○関心・意欲・態度</td> <td>学習への参加，ワークシート作業</td> </tr> <tr> <td>○思考・判断</td> <td>発言</td> </tr> <tr> <td>○知識・理解</td> <td>提出された内容などの記録作業</td> </tr> </table> 授業展開の反省点を フィードバック 	○関心・意欲・態度	学習への参加，ワークシート作業	○思考・判断	発言	○知識・理解	提出された内容などの記録作業
○関心・意欲・態度	学習への参加，ワークシート作業						
○思考・判断	発言						
○知識・理解	提出された内容などの記録作業						
単元の授業終了後	授業後も評価の作業が必要です。 毎時間ごとに観点別評価を行います。しかし，毎時間全員に対して全観点を見るというのは物理的に不可能でしょう。そこで ① ある時間には，一つの観点到絞って観察を行う。 ② 特に顕著な活動については，対象外の観点も記録に残すことも，必要になってきます。 単元における観点ごとの評価の総括 学校で決定した総括の方針に基づきます。 評定への換算 学校で決定した総括の方針に基づきます。						

III

評価・評定の方法について

保健分野の、より計画的で充実した授業の実施はもちろんのこと、「評価・評価」についても、『保健体育科』として、体育分野と同様、観点別学習状況の評価を実施し、体育分野と合わせて目標に準拠した評価による評価（総括）をしていかなければなりません。



次のような方法で、体育分野の4観点に保健分野の3観点を加えた評価・評価を行うことができます。

1 評価・評価の基本的な捉え方について



「評価」また「評価」について、先ず次のことを確認しておきましょう。

●「評価」とは

「観点別学習状況の評価」のことであり、各教科の目標を実現するために密接的関連のある資質・能力について分析的に評価するものである。「評価の観点」が評価をする場合の基本的要素である。

●「評価」とは

各教科の目標の実現状況を総括的に評価するものである。評価は、観点別学習状況の評価を総括した学力を評価することになるので、評価は、観点別学習状況の評価から導き出すことは当然である。

「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（中学校）」から抜粋
（国立教育政策研究所教育課程研究センター）（平成14年2月）

2 「観点別学習状況の評価」から「評定」への流れ



「評価」から「評定」に到るまでの展開・流れを把握しましょう。

(1) 単元としての総括

授業における評価の蓄積により、単元の観点別学習状況の評価を出す。

- 3 観点全てを毎時の授業において評価することには無理がある。
- ポイントを絞って計画的に評価をしていく。(授業中、授業後に何を評価するか)
- 補助簿等の記録，評価資料の収集（自己評価カード，レポート，テスト他）



具体例としては，詳細な内容を示してある
p18「3の(1)」も参照してください。

(2) 年間の評価としての総括

各単元の観点別学習状況の評価を総括して，学期または年間の観点別学習状況の評価を出す。

- 保健分野の単元ごとの3 観点の評価と体育分野の4 観点を合わせて，各観点別学習状況の評価を出す。
- 総括の方法には，ABCを点数化しその合計や平均値等で出す方法や，ABCを並列して，その比率等から評価する方法がよく使われる。



具体例としては，詳細な内容を示してある
p25「3の(2)」も参照してください。

(3) 評価から評定へとつなげる

学期または年間の観点別学習状況の評価から評定を出す。

- 総括した観点別学習状況の評価をもとに5段階の評定へとつなげる。
- 各学校としての出し方の方針等も加味する。



具体例としては，詳細な内容を示してある
p27「3の(3)」も参照してください。

3 具体的な「総括」の進め方



ここでは、「単元としての総括」、「年間の評価としての総括」、「評価から評定へつなげる方法」、「よく用いられる評価の方法の特徴」として、「総括」の方法の詳細について明らかにしていきます。

(1) 単元としての総括

補助簿等の授業ごとの累積資料から、単元（小単元）ごとの観点別評価を出していきます。このとき、毎時間、無理に3観点全てを評価し記録することはせず、重視する観点を事前に決めておきましょう。（表1の評価欄に空欄があるのは、そのためです。）

また総括の方法としては、◎○△を点数化する方法や◎○△の比率から出す方法がよく行われています。その判定の目安となるのは◎○△の過半数の原理によると考えます。その際、例えば◎1つと△1つは○2つと見なします。

（◎○△の3種類がある場合、始めに2種類に換算します。）

例 ◎○△ → ○○○となる

◎が過半数の場合「A」

○が ♪ 「B」

△が ♪ 「C」

◎の数＝○の数…「A」または「B」（補助簿等を参考に授業全体を振り返り、評価する。）

◎の数＝△の数＞○の数…「B」

○の数＝△の数…「B」または「C」（但し、◎が1つでもあれば「C」にはならない。）

※この他のケースもあり得ます。

※オールBを「B」の中心にして、判定の目安を考えます。

※実践編のp48, p60, p71を参照してください。

【表1】

授業時間	1	2	3	4	5	6	7	8	単元評価
関・意・態	◎	○		◎	◎		○		A
思考・判断		○	○	◎		△		○	B
知識・理解	○		◎		○		○	◎	B

ここでは、8時間構成のある単元について、それぞれの授業ごとの観点別評価を集計し、最終的に単元全体の評価を「過半数の原理」において、「A, B, C」と総括（単元としての総括）したことになります。



(2) 年間の評価としての総括

保健分野と体育分野を合わせて、年間の評価としての総括をしていきます。次の表2は、2年生の例となります。

【表2】

	前 期				後 期							合 計	年間の評価
	1 学 期				2 学 期				3 学期				
単 元 ・ 種 目	体 づ くり 運 動	陸 上 競 技 I	球 技 I	健 康 と 環 境	水 泳	陸 上 競 技 II	器 械 運 動	体 育 関 に す る 知 識	武 道 ダ ン ス	球 技 II	傷 害 の 防 止		
授 業 数	4	8	10	8	8	8	10	8	8	10	8	90	
関・意・態	B	A	B	A	B	B	A	B	B	A	A	A5・B6	B
思 ・ 判	C	B	B	B	B	A	B	C	B	A	B	A2・B7・C2	B
技 能	B	A	A		A	A	B		B	A		A5・B3	A
知 ・ 理	B	A	B	B	B	A	B	B	B	A	A	A4・B7	B



表2の右端の「年間の評価（観点別評価）」は「B・B・A・B」になりました。各単元・種目の評価を、どのような方法で集計すると、このような評価が算出されるのでしょうか。

次の①，②において、その算出方法の一例を明らかにしていきます。

① 評価ABCを並列して、その比率等で観点別学習状況の評価を出す場合

表2の例から考えてみましょう。

「関心・意欲・態度」 A：5，B：6 → 「B」

「思考・判断」 A：2，B：7，C：2 → 「B」

「技能」 A：5，B：3 → 「A」

「知識・理解」 A：4，B：7 → 「B」

判定の目安を設定するのに、ABCを点数化しても並列しても、結果的にほぼ同じです。

② 評価のABCを点数化して、年間の観点別学習状況の評価を出す場合

表2において A…3点 B…2点 C…1点と設定し、「関心・意欲・態度」について考えてみると

関・意・態	B	A	B	A	B	B	A	B	B	A	A	A5・B6	年間
	2	3	2	3	2	2	3	2	2	3	3	計27, 平均2.5	B

- 観点別評価の実現状況を判定する目安の設定や方法を十分工夫・検討し、決定します。

※この数値を下記の判定の目安と照らし合わせてみます。

【観点別学習状況の評価を判定する際の目安例】

合計値から	平均値から	観点「技能」のみの合計値から
33～28… A 27～17… B 16～11… C	3.0～2.6… A 2.5～1.5… B 1.4～1.0… C	24～21… A 20～12… B 11～8… C

観点「技能」の判定の目安が他と違うのは、表2の場合8単元（3単元減）のため、合計値の幅が「24～8」（3点×8・1点×8）になるからです。

上記の判定の目安をどのように設定すればいいのでしょうか。
ABCの過半数の原理から、下記のような方法を考えました。

1つの観点総数 11単元の内訳（表2の例から）

比 率

合 計 値

平 均 値

A	A：11の場合 A：6とB：5の場合	3点×11=33 3点×6+2点×5=28	33÷11=3.0 28÷11=2.545
B	A：5とB：6の場合 B：6とC：5の場合	3点×5+2点×6=27 2点×6+1点×5=17	27÷11=2.454 17÷11=1.545
C	B：5とC：6の場合 C：11の場合	2点×5+1点×6=16 1点×11=11	16÷11=1.454 11÷11=1.0

(3) 評価から評定へとつなげる

観点別学習状況の評価「ABC」を並列し、判定の目安例に照らして評定を出していきます。【表2】の例では、総括した観点別学習状況の評価は「BBAB」でした。これの下記の目安から判定すると、この評定は「3」になります。

【判定の目安例】

AAAA・AAAB…5 または 4
AABB・AAAC…4
ABBB・AABC・ABBC・BBBB・AACC・BBBC・ABCC…3
BBCC・ACCC…2
BBBB・CCCC…1 または 2

オールAでも評定「5」、オールCでも評定「1」になるとは限りません。
以下のことに留意しましょう。



「AAAA」であれば「4」又は「5」,「BBBB」であれば「3」,
「CCCC」であれば「2」又は「1」になる。(略)

例えば、学校において、評定に総括する際の観点別学習状況の評価結果についての観点ごとの重み付けが異なることがあること、また、同じ「A」「B」「C」という評価結果についても、それぞれの評価結果が示す実現状況には幅があり、このことが評定への総括に反映されることも想定されるからである。

「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（中学校）」から抜粋
(国立教育政策研究所教育課程研究センター) (平成14年2月)



評価・評定を出す際に、中間的な処理として、点数化することもあります。

(4) よく用いられる方法の特徴

① 観点別評価（ABC）をそのまま並列し、判定の目安に照らして評定する方法

(○…メリット ●…デメリット)

- 「ABC」の並列や比率だと総括し易く、容易に評価・評定につなげることができる。
- 単純に個数が多いもので代表させることは説明しやすく、生徒・保護者にも理解され易い。
- 生徒の姿を目標実現状況や評価規準と照らし合わせ、検証することが容易である。
- 過半数の原理に基づき、質的評価の特性を反映している。

- 「ABC」の判定の目安をしっかりと押さえておく必要がある。3段階だとそれぞれの評価の幅が広く、例えば評価の回数が少ない場合には、評価の5段階にする際に留意が必要である。

例えば、「A」であっても実現状況に幅があり、「B」に近い「A」もあるため、オール「A」でも「4」の可能性もある。「C」についても同じことがある。「C」であっても、「Bに近いC」であると、オール「C」でも「2」の可能性もある。

② 各観点別評価（ABC）を点数化し、合計値や平均値を判定の目安に照らし合わせて評価・評価を出す方法

- 点数化することで簡単に評価・評価に総括でき、その結果は数字の上ではより細かなものとなる。
- 生徒・保護者は、合計や平均値等分かり易く点数化に慣れているので、総括への経過がわかりやすい面がある。
- パソコン等の処理が簡単で、データを容易に集計できる。
- 場合によっては数値のみが先行し、適正な評価・評価にならないことがある。
- 各観点の判定の目安の設定が難しい面もある。評価の方法が適切かどうか、生徒の学習活動の目標実現状況と評価規準等を照らし合わせて、常に検証することが大切である。
- 評価を導くまでに時間がかかることもあり、工夫・改善することが必要である。



評価・評価については、生徒や保護者に誤解を生じることがあるので、十分な説明が必要です。また、評価の信頼性を高めるためには、毎時の評価を蓄積していくこと、評価方法や評価結果を十分吟味することなどが大切です。

ABCの並列（比率）からでも、点数化しても、「オールB」を中心にした判定の目安を設定すれば、過半数の原理により設定するので、結果的にはほぼ同じになります。

どのような方法でも、メリット・デメリットが考えられるので、よりよい方法を工夫・改善することが大切です。



考え方のポイント

- ☆ 教師が生徒・保護者に明確に説明でき、わかり易い評価・評価方法であること。



生徒自身、自己の課題が明確になり、目標が立て易くなる。学習意欲が高まる。

- ☆ 観点別学習状況の評価が日々の授業において個々に適切に行われ、その蓄積による評価・評価であること。



個々の生徒の能力に応じた指導が可能となり、教師自身の指導の振り返りになる。
評価・評価の信頼性・妥当性・説明可能性が高まる。

4 保健分野の評価のあり方と体育分野との評価の関わり（Q&A）



保健の評価はペーパーテストでみればいいのでしょうか？

<Answer>

単元において、保健分野も体育分野と同じように、観点別に評価をだす必要があります。保健分野は3観点、体育分野は4観点であり、2つの分野を同じように扱うには、授業時間数等を考慮した扱いが必要です。以前の保健分野の評価としては、定期テストの点数等を、体育分野に加えて評価・評定とすることもあったかと思われます。しかし、ペーパーテストのみの評価では一面的になるので、日々の保健授業における生徒の学習活動を多面的に評価しながら、支援していくことが重要です。

保健分野においても、教科目標の実現を目指し、指導計画とともに評価計画に沿ったより良い授業と評価活動が求められています。

なお、今回改訂の「絶対評価」に関しては、保健分野も単元ごとに観点別評価規準を作成し、「観点別学習状況の評価」（分析的評価）を行い、体育分野と合わせて総括し、「評定」へと導くことが必要であるとされています。



「重み付け」についての質問です。保健分野と体育分野によって、それぞれ異なるように重み付けをするのでしょうか？

<Answer>

基本的には、各分野の観点別評価規準に則り、体育分野の1単元と保健分野の1単元を同等に扱っていくことが妥当と考えます。しかし、取り扱う授業時間の総時間に対する割合を考慮して分野や単元等の重み付けをする考え方もあります。3年間の総授業数270時間のうち保健の授業にあてる授業時数は48時間程度です。偏った評価をせず、より正確な評価や支援によって、生徒の個性・能力の伸長を支援することが大切なことです。



もうひとつ、「重み付け」についての質問です。4つの観点「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能」「知識・理解」について、それぞれ重み付けをするのでしょうか？

<Answer>

各観点が学力を構成する要素とするならば、重み付けは均等であることが妥当であると考えられます。ただし、各単元の特性や内容から、重み付けをすることがあります。日頃の授業においても、すべての観点が同じように扱われることはありません。その授業によって重点化される場合が多いのです。しかし、総括的に考えた場合、目標の実現状況に密接的関連のある資質・能力について分析的に評価したり、学力として評定したりするためには、各分野とも観点は同等に扱うことが妥当であると考えられます。



学習状況の評価から適正な評定へと導き出すためにはどうすればいいのでしょうか？

<Answer>

教師自らの「評価・評定のあり方や方法について」の振り返りが常に必要です。単に割合や平均値・合計値だけでは真の評価ができていないか疑問が残る場合もあります。評価・評定された生徒の姿と実際の生徒の姿との比較によって、評価方法の確認・検証・吟味していく必要があります。

ABCの比率や点数化等で安易に評定を出すだけでなく、生徒の実際の姿や行動と「評価規準」等を照らし合わせて実現状況を踏まえ、授業における評価方法等（観察、ワークシート等）を見直し、改善していくことが大切です。

また、観点別評価を適正に評定へと総括するには、累積した資料のみならず、生徒の学習状況の姿と目標の実現状況や評価規準等と照らし合わせて、評価から評定へつなげる方法を吟味・改善することが大切です。

IV

保健学習で多用される評価方法とその活用法： 種類, 各評価方法の特性

1 多様な評価方法を活用する意義



様々な特徴を持った生徒がいます。また、多様な学習場面が展開されます。その中で生徒の学習の状況を的確に把握し評価するために、大切なことがありますよね。

- Aは授業中よく発言するし、課題学習でも積極的に努力していた。発表会でもリーダー役だった。しかしテスト結果はよくない。
- Bはグループワークが苦手だが、じっくり考えるのは得意だ。内容もよく理解している。
- 日頃目立たないが、Cはワークシートやノートにはいいことを書く。自信を持ってさらに発言してほしいのだが…
- Dは薬物乱用防止教育には積極的だ。しかし感染症予防には関心がない様子である。

生徒の学習に対する取り組みや反応は様々です。また、学習活動やそれにより得られる学習の成果にも個人差があります。さらに、同じ生徒でも、学習の対象や場面によってそれらが変化したり、観点によって実現が異なったりする場合があります。

したがって、生徒の学習活動を多面的に評価する必要があります。各方法は、観点や学習場面などに特性を持つもので、万能な評価方法はありません。様々な評価方法を活用しましょう。複数の方法を組み合わせると、評価の正確さが高まります。

生徒の学習の状況は実に様々です。だからこそ、多様な評価方法を用いる必要があります。



2 評価方法の特性，留意点



評価方法もいろいろなものがありますね。また、それぞれに特徴があります。

いずれの方法についても、評価規準の具体例を、参考にして、事前に評価の行い方や判定の目安を明らかにしておきます。以下では、各方法について特性や留意点等を簡単に示します。

(1) 観察

- 毎時の授業での評価方法の中心になるものです。
- 関心・意欲・態度がよく反映されます。
- 記録する際には、行動や発言などの事実と、その事実に対する解釈を混同しないようにします。

(2) ワークシートや学習ノート

- 記入内容に対して教師から適宜フィードバックを行います。
- 感想文などのように自由に書かせる場合と、設問を設けて書かせる場合では、得られる情報が異なります。
- 必要な場合、記述した生徒への問いかけや対話などを行うことによって、さらなる情報を得ます。

(3) パフォーマンス、冊子、発表、ロールプレイなど

- 表現形として明確であり、学習成果をトータルに表しています。
- 問いかけ等と組み合わせると、表現の意図や知識・理解の状況についても推測できます。
- 完成に至るまでの過程についても、観察法や学習ノートの記述、関連資料のファイル（例えばポートフォリオ）などの他の方法を組み合わせることにより評価しましょう。

(4) 自己評価カードやポートフォリオの活用

- 自己評価とは、学習の活動や成果等について、生徒自らが評価し、自らの持つ判断基準によって意味づけることです。自己評価は、以降の行為を改善することにも有効です。
- 自己評価は、自主的・主体的な資質・能力である「生きる力」の形成に欠かせません。
- 自己評価カードやポートフォリオ（右下参照）は、自己評価のための有効な方法です。
- より適切な自己評価ができるように、自己評価の目的や意義を十分に理解させ、自己評価のための自らの基準を確立できるように支援しましょう。相互評価と組み合わせることも有効です。

(5) ペーパーテスト

- 全員に、同一の問題に対して同じ時間で書かせるなど、コントロールされた状態で評価を行うことができます。
- 一度に多くの情報を得ることができます。
- 質の高いテスト問題を作成すると、得られた情報の妥当性や信頼性が高く、分析や活用性が高いものとなります。

ポートフォリオによる評価

ポートフォリオとは、生徒が作る学習記録のことをさします。学習記録には、作文、観察記録、絵のような制作物、教師からの配布物（ワークシートや振り返りカードを含む）、地域の諸機関のパンフレット、新聞の切り抜き、インターネットの印刷資料、自分自身のメモ、デジタルカメラによる撮影画像など様々なものが含まれます。

ポートフォリオは、生徒が学習状況を自己評価する際に大いに活用できます。また、教師は、生徒の学習成果や学習過程を個別に評価することに利用できます。その際には、生徒の資料に対して、次の学びへと発展できるようなコメント（例えば、努力や工夫などを肯定する、記述の具体性を求める、判断のヒントを示す、追究の方向性を示唆する、など）を記述することが大切です。

3 ペーパーテストの活用について



ともすれば断片的な知識の習得度を測ることに偏りがちだったこれまでの評価の主流を占めた「ペーパーテスト」も、工夫次第で改善していけます。

従来、ペーパーテストでは、穴埋め、記号や数字の記入などを多用した客観テストが主流でした。客観テストが無意味なわけではありません。ただ、評価基準の具体例の実現状況は質的な面が強いため、客観テストでは評価できない場合が少なくありません。客観テスト問題と記述式テスト問題を適宜組み合わせることで作成することが現実的と思われます。

(1) 客観テスト式と自由記述式の特徴

種類	長 所	短 所
客観テスト式	- 採点が客観的である。 - 多くの問題を出せる。 - 学力を細分化して評価できる。 - 一度に多くの生徒を評価できる。	- 問題作成に時間がかかる。 - 偶然による正解がありうる。 - 断片的な知識の習得に意識が集中しがちである。 - 問題作成に作成者の主観的な判断が反映される。
自由記述式	- 個々の知識の関係性や構造化に対する理解の程度を評価できる。 - 思考・判断の実現状況を推測できる。 - 問題の吟味は必要だが、客観テストに比べ、作成時間は短い。 - オープンエンドにすると、関心・意欲・態度についても推測できる場合がある。	- 評価対象の学力を精選する必要がある。 - 問題作成に作成者の主観的な判断が反映される。 - 評価の目安を明確にしておく必要がある。 - 解答で何を求められているか明確にするように問題文を練り上げる必要がある。

・西岡加名恵,「第2章 教育評価の方法」,『新しい教育評価の理論と方法〔I〕理論編』,(日本標準,2002)一部改変

ペーパーテストにおいても「記述式テスト問題」を取り入れることで、ペーパーテストで評価可能となる内容が広がってきます。



(2) ペーパーテストの改善



以前は単なる「穴埋め問題」ばかりを使っていたけど、「記述式の問題」を取り入れることで、生徒の「思考・判断」の観点も評価できるようになりました。「健康と環境」の単元を例に比較してみます。

<以前のありがちな問題例>

() の中に適当な言葉を入れなさい。同じ番号には同じ言葉が入ります。

人の体には環境の変化に対する (①) が備わっています。したがって、ある程度の環境の変化には (②) できます。しかし、環境の変化があまりに大きい場合には (②) できなくなります。例えば (③) は、暑さに (②) できなくなった場合に引き起こされる病気です。

<「思考・判断」の評価も可能となる問題例>

- 1 次のことについて、指定されたことばと□の中から適切な用語を一つ選んで説明しなさい。
(知識・理解)

「不完全燃焼」 「大腸菌」 「ぜんそく」 「体温調節」

- 1) 「熱中症にかかること」を「適応能力」と□の中から適切な用語を一つ選んで、できるだけ具体的に説明しなさい。

()

- 2) 「一酸化炭素中毒にかかること」を「許容濃度」と□の中から適切な用語を一つ選んで、できるだけ具体的に説明しなさい。(解答欄省略)

- 3) 「安全な飲み水の供給」について「水質基準」と□の中から適切な用語を一つ選んで、できるだけ具体的に説明しなさい。(解答欄省略)

- 4) 「公害の防止」について「廃棄物の衛生的処理」と□の中から適切な用語を一つ選んで、できるだけ具体的に説明しなさい。(解答欄省略)

- 2 廃棄物の問題を解決するには、ごみの減量や資源化・再利用の推進に取り組む必要があります。ごみの減量や資源化・再利用を推進するための取り組みであなたがよいと思うものを3つ書きなさい。また、その理由も書きなさい。(思考・判断)



上記の問題のうち、1の1)の解答の評価について、次のようなことが考えられます。

1の1)に関する解答の判定

① 「十分満足できる」状況を実現していると判断した子どもの姿の具体例

ウ [知識・理解] ①人間の健康は環境と深くかかわって成立しており、身体には環境に対する適応能力があることを知り、具体例を挙げて説明できる。(p58)

● 判断の目安

指定された用語と適切に選ばれた用語を使って、指示された内容について**正しく**¹⁾、かつ**具体的に**²⁾（体温調節、適応能力、熱中症等のメカニズムや現象等）に説明されていた場合とする。その際、熱中症が適応能力の限界を超えた現象であることを明示している。

1) 正しく

熱中症と体温調節について以下のように捉え、適応能力を加えた計3つの用語の関係を正しく示している。

- ・ 体温調節：適応能力の一例であり、体温を一定に保つ機能
- ・ 熱中症：適応能力の限界を超えている現象

2) 具体的に

下記のような具体的な記述が複数見られる。

- ・ 熱中症のメカニズム：体の中に熱が溜まる、体の熱が逃げない。
- ・ 熱中症の現象の具体例：体温が異常に上昇する。異常な発汗、立ちくらみ、意識障害などの症状が起こる。
- ・ 熱中症の原因：暑い環境、（高い湿度、悪い体調）
- ・ 体温調節のメカニズム：発汗、血管の拡張などにより体内の熱を逃がす。

● 解答例

「人は、暑くなると汗をかくことによって体温調節をおこなうという**適応能力**があります。しかし、非常に暑い日は調節ができなくなり、熱中症にかかることがあります。」

② 「おおむね満足できる状況（B）」と判断できる子どもの姿の具体例

ウ〔知識・理解〕①人間の健康は環境と深くかかわって成立しており、身体には環境に適応できる能力があることを知っている。（p52）

● 判断の目安

指定された用語と適切に選ばれた用語を使って、指示された内容について**正しく**¹⁾説明されていた場合とする。解答に具体性は求めない。

1) 上記の「十分満足できる」の状況と同様。用語の正しい関係のみ述べられている。

● 解答例

「人には、体温調節という**適応能力**があります。しかし、非常に暑い日は熱中症にかかることがあります。」



V

授業実践



【実践1】 第1学年「心身の機能の発達と心の健康」

1 単元名 第1学年「心身の機能の発達と心の健康」全12時間 小単元名 「生殖にかかわる機能の成熟」（4時間配当）

性の逸脱行動は現代的健康課題の一つであり、若者の性に関する意識、性交経験率の高さ、性感染症やエイズの問題などを勘案すると、性に関する学習は、中学校保健学習において重要視すべきものの一つであると言えよう。

思春期は、生殖機能が顕著に発達する時期である。また、男女ともに異性への関心が高まる一方、性に関する考え方に性差や個人差が認められるようになる時期である。一方、生徒の考え方や行動に影響を与える性に関する情報には、異性の感情や関係、性行動について誇張的なものや偏見を伴うものなどが少なくない。したがって、生徒には、性機能の成熟や思春期の特性、異性の共通性や相違性などについて理解し、相互に尊重する態度をとれるようになることが望まれる。さらには、性情報への適切な対処能力の基礎も形成させたい。そこで、異性への理解および尊重では、近い将来起こりうる意志決定が求められる事例を提示し、そこでの行動選択について考えさせた後、それらの対処法について生徒相互にチェックして結果を返すことにより、理解を深めることとした。その際、対処法の検討、相互のチェックは男女別の小グループで行った。それにより性差がより顕著に理解されると期待されたからである。

2 目 標

- (1) 生殖に関する機能の成熟について自己の課題を見つけ、様々な方法で調べ、様々な意見を参考にし、結果をまとめて発表しようとする態度で学習に臨むことができる。(関心・意欲・態度)
- (2) 生殖に関する機能の成熟について知識・経験・各種情報を分析整理して適切な行動について考えまとめることができる。(思考・判断)
- (3) 生殖に関する機能の成熟の仕組みや特徴はもとより、性情報に関する適切な認識と性に関する正しい知識や行動の仕方を知っている。(知識・理解)

3 評価と支援のポイント

(1) 生徒の立場から（生徒は）

- ① 成長とともに起こる生殖機能の成熟について、ホルモンの働きと結び付けて正しく知識を理解することができる。
- ② 思春期の性的関心の変化や男女の考え方の違いについて、ケーススタディを通して学び、日頃の生活の言動をあてはめて考えることができる。
- ③ ブレインストーミングやグループディスカッションを通して性情報に関する適切な認識と正しい知識や行動の仕方について自分の考えを持つことができる。
- ④ 学習カード等を利用し、考え方や知識の変化の継続的な振り返りをおこなう。

(2) 指導者の立場から

① 指導形態に沿った評価方法について工夫と改善を加える評価と支援の留意点

- 全ての時間で全ての観点を見取ろうとせず、重点的に観察する観点を設定する。(評価)
- ケーススタディにおいては授業中に意欲的な参加を中心に見取り、思考・判断の変化は授業中とワークシートを活用して見取る。(評価)
- ブレーンストーミングは相互の意見の発表と尊重を中心に見取り、ワークシートによって思考・判断の変化を見取る。(評価)
- 生徒の性情報に関する情報源を、事前に調査しておく。(支援)
- 日頃からケーススタディやブレーンストーミングを意図的に授業に取り入れておくといよい。(支援)
- 必ずしも男子が過激で女子が保守的な意見が出されとは限らない。無理な誘導を図らずに、タイミングを計り「相手を大切にした行動」に気がつくように指導をする。(支援)
- 情報の性描写については注意を払い、刺激の強い物は扱わない。(支援)

② 指導に生かす評価の在り方

授業を始めるにあたって	生徒の性情報源等の事前調査
授業に際して	授業時の重点観点項目の観察，毎授業後のワークシートの分析
授業を総括して	授業観察の集計，ワークシートの分析，ペーパーテスト

4 単元の評価規準（おおむね満足できる状況(B)と判断できる子どもの姿の具体例)

観点項目	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 知識・理解
単元の評価規準	年齢に伴う身体機能の発達や心身の調和と心の健康などについて関心を持ち、仲間と協力して資料を集めたり、意見を交換したりしながら課題をみつけ、意欲的に学習しようとしている。	年齢に伴う身体機能の発達や心身の調和などについて、自分の知識や経験を、資料、仲間の意見や考えなどを元に、課題の設定や解決の方法を考え、判断できる。	心身の機能は生活経験などの影響を受けながら発達すること、身体と精神は互いに密接な関係にあることを科学的に理解し、日常生活の課題解決に役立つ知識を身に付けている
学習活動における具体の評価規準の例（単元）	① 心身の機能の発達や、心の健康などについて、自分の経験や仲間との意見交換、資料などをもとに、課題を見つけようとしている。 ② 心身の機能の発達や、心の健康などについて、教科書などの資料から課題を解決するための情報を集めたり、課題について調べようとしていたりしている。 ③ 心身の機能の発達や、心の健康などについて、仲間の考えや意見を聞いたり、集めた資料を活用したりして、自分の意見を発表しようとしている。	① 心身の機能の発達や心の健康などについて、自分の知識や経験等をもとに、課題を見つけることができる。 ② 心身の機能の発達や心の健康などについて、教科書などの資料や自分のもっている知識などをもとに予想したり、整理したりすることができる。 ③ 心身の機能の発達や心の健康などについて、学習したことを日常生活に当てはめ、適切な行動を選択することができる。	① 年齢に伴う身体諸器官の発達の傾向や性差、個人差などがあることを知っている。 ② 思春期におこる心身の変化や思春期が生殖機能の成熟や自己の認識が深まる重要な時期であることを知っている。 ③ 心の健康を保つため、心身の調和を保つことの大切さや欲求やストレスに適切に対処する方法を知っている。
学習活動における具体の評価規準の例（小単元）	ア 健康安全への関心・意欲・態度 ① 生殖に関する機能の成熟や異性・性情報との関わりなどについて、説明を聞いたり、資料を見たりすることで日頃の生活の中での自己の課題を見つけようとしている。 ② 生殖に関する機能の成熟や異性・性情報との関わりなどについて、仲間と協力し合って課題解決のための情報を調べたり意見を述べたりしようとしている。 ③ 生殖に関する機能の成熟や異性・性情報との関わりなどについて、教師の説明・助言や仲間の意見、集めた資料などを元に自分の考えをまとめ発表しようとしている。	イ 健康安全についての思考・判断 ① 生殖に関する機能の成熟や異性・性情報との関わりなどについて、学んだことや知識・経験をもとに課題を見つけることができる。 ② 生殖に関する機能の成熟や異性・性情報との関わりなどについて、教師の支援や資料、仲間の発言をもとに自己の考えを分析、整理することが出来る ③ 生殖に関する機能の成熟や異性・性情報との関わりなどについて、学習したことを生かし、生活に当てはめて適切な意志決定や異性への思いやりのある行動を選択すること。	ウ 健康安全についての知識・理解 ① 生殖機能の発達、射精・月経、妊娠が可能になることについて知っている。 ② 思春期には異性への関心が高まる時期であることや異性を尊重した行動が大切であることを知っている。 ③ 性情報には正しくないものや意図的に操作されたものも含まれていることや、性情報に対する適切な態度を取ることの重要性を知っている。

※中学校保健学習では、小単元をまとまりとした授業評価が行われることがあるので、小単元の評価規準の具体例を設けた。

5 学習活動と評価方法の計画

小単元指導計画（下線の評価観点は授業時に特に重点を置いて行うもの）

時間	項目	主な学習内容と方法	評価方法と規準
1	生殖に関わる機能の成熟 ・性腺刺激ホルモンの働き	性腺刺激ホルモンの働きにより生殖器の発育とともに、生殖機能が発達すること 教師の支援 - 自己の身体の変化と、学ぶ内容とが結びつく様に具体性を持たせる。 - 個人・性差があることを理解させいじめやからかいにならないよう配慮する。	講義形式 * 教師による観察 ア① 生殖に関する機能の成熟について、説明を聞いたり、教科書などの資料を見たりすることで日頃の生活の中での自己の課題を見つけようとしている。 ア② 生殖に関する機能の成熟について、仲間と協力し合って課題解決のための情報を調べたり意見を述べようとしたりしている。 * ノート記録（授業後） イ① 生殖に関する機能の成熟について、学んだことや知識・経験をもとに課題を見つけることができる。 * ペーパーテスト（授業後） ウ① 生殖機能の発達に関するホルモンなどの働きについて知っている。
2	・妊娠が可能になる成熟	男子では射精、女子では月経が見られ、生殖機能が発達し、妊娠が可能になること 教師の支援 - 異性の身体の変化について正しい知識を知ることこそが、異性尊重の第一歩である事をふまえて行う。 - どのような態度や接し方がよいのかまで、深く考えさせるよう授業を導く。	講義形式 * 教師による観察 ア① ア② * ノート記録（授業後） イ② 生殖に関する機能の成熟について、教師の支援や資料、仲間の発言をもとに自己の考えを分析、整理することが出来る * ペーパーテスト（授業後） ウ① 男女による発達の違い、性差、妊娠が可能になる能力について知っている。
3	異性の尊重	思春期には性衝動が生じたり、異性への関心が高まったりすること 欲求や行動には男女差や個人差があること 異性を尊重することが大切であること 教師の支援 - なぜ、女性が立ち上がってしまったのかを真剣な態度で考える状況を作りたい。 - 必ずしも男子生徒が過激な意見を出すとは限らないので、その様な展開の際は、まとめの段階で、身近な人への思いやりや法律で守られている理由などを含めた話を行う必要がある。 - チェックは単にあり得ないなどの感想ではなく、どうすべきかという視点で行わせる	事例を用いた学習（ケーススタディ） * 教師による観察 ア② ア③ 生殖に関する機能の成熟について、教師の説明・助言や仲間の意見、使っている資料などを元に自分の考えをまとめ発表しようとしている。 * ペーパーテスト・ワークシート（授業後） イ③ 生殖に関する機能の成熟について、学習したことを深め日常生活における適切な意志決定や異性への思いやりのある行動について考えることができる。 ウ② 思春期には異性への関心が高まる時期であることや異性を尊重した行動が大切であることを知っている。

時間	項目	主な学習内容と方法		評価方法と規準
		思いやりのある行動選択について考えさせる。		
4	性情報への対処	氾濫する性情報から様々な影響が生じること 性情報への対処など性に関する適切な態度や行動の選択が必要になること 教師の支援 - 性情報についていくつかの事例を用いて実体をつかみやすくする。ただし、生徒や学校の状況を考慮して資料は選択する。 - 過激なコピーが、必ずしも批判の対象とならないことも想定し、配慮、思いやり、異性を大切にする気持ち、身近な家族が巻き込まれたらと言う様な設定や犯罪等への影響など用意する	ブ レ ー ン ス ト ー ミ ン グ	* 教師による観察 ア② ア③ - 前向きな参加態度 - 自己の意見の発表 - 他者の意見の尊重 * ワークシート・ペーパーテスト(授業後) イ② イ③ ウ③ 性情報には正しくないものや意図的に操作されたものも含まれていることや、性情報に対する適切な態度や行動選択の重要性を知っている。 - 現実的・具体的な思考と対応 - 現実社会の状況に対する考察

6 展開例 本時の計画（4 時間中第 3 時）「異性の尊重」

観点別のねらい

- ◎ 生殖に関する機能の成熟について、教師の説明・助言や仲間の意見、集めた資料などを元に自分の考えをまとめ発表しようとしている。（関心・意欲・態度）
- 生殖に関する機能の成熟について、学習したことを深め日常生活における適切な意志決定や異性への思いやりのある行動について考えることができる。（思考・判断）
- 思春期には異性への関心が高まる時期であることや異性を尊重した行動が大切であることを知っている。（知識・理解）

場面設定

彼と彼女は今、高校 3 年生です。付き合い始めて 3 ヶ月になります。今日は彼の家に彼女が遊びに行きました。いつものように音楽の話やゲームの話で盛り上がっていると、突然彼が「いいだろう」と肩を抱きしめてキスをしたくなりました。彼女は思わず手を払い立ち上がってしまいました。

学習の段取りを簡単に説明

- ・話し合いが興味本位にもしょおかしくならないよう、ストーリーの中で女の子が思わず振り払い立ち上がった行為に着目させたい。

お互いのシナリオをチェックする。

- ・単に「おかしい」とか「あり得ない」というチェックではなく、改善点が相手に伝わるチェックを指導する。

行動の違いはなぜ起きるのか考えさせるとともに、教師の助言によって、異性を尊重する立場に立った行動選択について理解が進むようにすすめる。



今までの学習の中から、答えを導き出しやすいように、既習事項のページや事柄を繰り返し確認させる。グループの発表後に、重要な項目、焦点が薄れた項目などを再度教員が確認しながら提示し、必要な知識について確認を行う。また、より具体的な事例等で理解を図る。

相手に対する思いやりのある行動

- ・感情に走った行動になってしまった後、つらい立場になって相手に対する思いやりのある行動とは何かを考えさせ
- ・必要に応じてより具体的に法的な規制の根拠などにも触

時間	学習活動
20	1 事例を用いて場面を理解する。 2 彼と彼女の心境を考える。 男女交際の時、次のような場面に直面しました。彼と彼女について考えてみましょう。 なぜ彼女は手を振り払って立ち上がったのでしょうか。 彼の気持ちはどんな心境なのでしょう。 彼と彼女の立場で、シナリオを作ろう。 ・シナリオはグループごとに画用紙に大きく書く。 ・シナリオをそれぞれの相手（グループ）に渡す。
15	シナリオをチェックしよう。 3 お互いのシナリオをチェックする。 ・異性のシナリオをチェックし、なおして欲しい箇所を伝える。 ・指摘された内容をふまえてシナリオを改善する。 ・できあがったグループからシナリオを黒板に貼る。
10	シナリオ作りを通して感じたことや気づいたことを発表しよう。 4 気づきや感じたことを発表する。 異性への関心や行動の男女の違いを知ろう。 思春期における、男女の接近欲に関する調査結果から行動関心に違いが出てくることを知る。
5	学習のまとめをしよう。 5 学習のまとめとして振り返りを書く。
学習後の評価活動（授業後・単元終了後） ①本時の観点別評価の記録 ②ワークシートの確認・評価 ③テストでの理解の様子	

本時の授業中と授業後の観点別評価のポイント

- ・授業観察＞ア②、ア③
- ・学習カード分析＞イ②、イ③、ウ②
- ・主にア②③を授業中に観察し、その他の観点カードの分析は授業後に速やかに行い、思考面テストによる評価は後日となる。

るのは女子であることや、法律でなぜ守られているのかなどをふまえる。
れ、再度、深化を図る。



シナリオの作成

・女子の方が必ずしも相手に対して思いやりのあるシナリオを作るとは限らない。すぐに訂正せず、流れの中で気づかせたりするとともに、まとめの時になぜ法律で守られているのかなどふまえて、異性への思いやりについて説話を入れる。

教師の支援	評価方法
学習の進め方の説明 場面の提示（ケース） 男女別座席配置の工夫 男女の心情の違いに気づかせるようにする。 近い将来に出会う場面よりよい対応が出来るように学ぶことを意識させる。 真剣みのないシナリオはやり直しさせる。	観察（態度・発言） ア②設定を理解し、男女の心情について考えた意欲的な参加
異性の要求とのずれに気づかせる。	観察（発言・態度） ア②シナリオチェックの協力 ア③仲間の意見を取り入れようとする態度
男女別にシナリオを貼り、自然と違いに気づくようにする。	観察（発表） イ②仲間の意見を自分の考えに生かしている。
資料提示① ・思春期の男女の接近欲と接触欲 学習の振り返り ・性差による行動の違いや、相手を尊重した行動について考え、各自で自分の考えをまとめる。また、授業への取り組みをカードに記入させる。	ワークシート ウ②相手の気持や立場を尊重する事の大切さの理解
*各観点について授業中の記録を整理する。 ア②意欲的な参加 ア③自己の生活に照らし合わせた考え *シートの記入内容を授業後に分析集計する。 *定期考査で知識について検証する。 イ③相手の立場や気持ちを思いやる思考があるかどうか ウ②異性の気持ちを尊重する考え、具体的行動の大切さの理解度	

努力を要する生徒への働きかけ

- マイナスの発言や行動が続く生徒
周囲の姿勢や発言に注目させ、またその生徒の発言等に対する周囲の意見を分析させるなどしてよりプラスの言動を導き出す。
- 興味本位で発言などする生徒
一つの生徒の表現として捉え、すぐにいさめて訂正するような指導はしない。逆にタイミングを考え、「思いやりのある行動・言葉とは何か」という観点で教員から話をして客観化させ気づかせる。
- 発言の少ない生徒・自信のない生徒
有効な発想や発言を見のがさずに、肯定的にコメントする。
- イメージが乏しい生徒
かみ砕きより実感を持てる事例に置き換えさせたりして発想を誘導する。
- 参加の仕方を理解できない、躊躇している生徒
グループ内での働きかけを喚起したり、より具体的な作業手順を提示する。
- 実際の行動について、ためらいや迷い、判断が付きかねている生徒に対して、生徒の発想に肯定的な評価をこまめに与え、自信を持って行動するように働きかける。



は目にとまった顕著な者を記録する。
は授業中の顕著なものも拾う。

7 観点別学習状況の評価の進め方

(1) 基本的な考え方

本單元では、「ケーススタディ」と「ブレインストーミング」を学習に取り入れ、異性の考え方や感じ取り方を理解し、よりよい社会生活につなげる実践力を養うことを意図している。

そのため学習活動では、相手の意見や考え方を認め、よりよい生活につなげる視点を持つことができたかどうかを評価していきたい。また主体的に意見を発表したり建設的な意見や態度を持ったりすることを評価する。その際評価では、「学習活動における具体的評価規準」を「おおむね満足できる」状況について設定し、それ以上と評価できるものを「十分満足できる」、それを実現していないと判断されるものは「努力を要する」として評価を行う。

(2) 小単元の「十分満足できる」状況を実現していると判断する子どもの姿の具体例

ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 知識・理解
① 生殖にかかわる機能の成熟や異性・性情報とのかかわりなどについて、主体的な態度で説明を聞き、資料や仲間の意見を参考に、日頃の生活の中での自己の課題を見つけようとしている。	① 生殖にかかわる機能の成熟や異性・性情報とのかかわりなどについて、学んだ知識や交わした意見を元に、自己の生活に結びつけて課題を見つけることができる。	① 生殖機能の発達の仕組みを理解するとともに、性差、個人差、妊娠の能力などがあることを理解し具体的に説明することができる。
② 生殖にかかわる機能の成熟や異性・性情報とのかかわりなどについて、主体的に教師や仲間と活動するなかで、課題を解決する為に自ら調べたり、資料を活用したり、意見を交わしたりしている。	② 生殖にかかわる機能の成熟や異性・性情報とのかかわりなどについて、教師の支援や資料、仲間の発言を元に自己の環境に当てはめて考えをふくらませ、分析、整理することができる。	② 思春期には異性への関心が高まる時期であることや異性を尊重した行動が大切であることを理解し具体的に説明することができる。
③ 生殖にかかわる機能の成熟や異性・性情報とのかかわりなどについて、教師の説明・助言や仲間の意見をもとに、自分の考えをまとめ、日常生活に生かそうとしている。	③ 生殖にかかわる機能の成熟について、性情報や異性とのかわりなども含め、学習を通して自己の考えを深め、適切な意志決定や異性への思いやりのある行動を選択し、その理由を明らかにすることができる。	③ 性情報には正しくないものや意図的に操作されたものも含まれていること、性情報に適切に対処することなどの重要性を理解し、情報の多面性について例を挙げて説明することができる。

※「努力を要する」状況と判断する子どもの具体例は省略

(3) 評価の方法

ワークシートについては授業時に記入させるが、記入の段階もしくは授業後の記入内容の点検で評価する。またテストでは思考・判断と知識・理解について評価できるような問題を実施する。

○「関心・意欲・態度」の評価について

主に学習参加の様子、班での話し合いや学級での意見交換などを中心に教師の観察（態度、発言）によって評価し、教師用補助簿に記録を取り蓄積する。

○「思考・判断」の評価について

ワークシート（記入内容、内容、感想）と主に話し合いでの様子をもって判断する。

ペーパーテストで思考の様子を判断できるような問題を工夫する。

○「知識・理解」の評価について

ワークシートへのまとめの内容、話し合いでの配慮や発言内容を持って判断する。

ペーパーテストで知識・理解を判断できるような内容を準備する。

(4)「努力を要する」と評価された子どもに対する指導の手だて

努力を要すると評価された生徒は多くの場合、何をすればいいのか、何を言えばいいのか、どうまとめればいいのかを理解できていない。そこで、以下のような手だてを考える。

○「関心・意欲・態度」

発言に自信のない生徒には、本人の意見を引き出し肯定的な声かけをすることで、よりプラスの思考を引き出し、意欲を喚起する。参加の仕方を理解できなかったり躊躇したりしている生徒には、グループ内での働きかけを喚起したりより具体的な作業手順を提示し、理解の向上を図る。また実際の行動についてためらいや迷い判断が付きかねている生徒には、その発想に対して肯定的な評価をこまめに出し、自信を持って行動するように働きかける。

反面、マイナスの発言や行動が続く生徒に対しては、周囲の姿勢や発言に注目させ、またその生徒の発言等に対する周囲の意見を分析させるなどしてよりプラスの言動を導き出す。

○「思考・判断について」

表出する発想や意見を肯定的なコメント（いいところに気がついたね、その考えは面白いな、もう少しその調子で掘り下げてごらん。等）によって萎縮させないように配慮しながら、よりテーマに沿った発想に近づき、期待する展開になるよう誘導する。イメージが乏しい生徒には、より実感を持てる事例に置き換えさせたりして発想を誘導する。

○「知識・理解について」

今までの学習の中から、答えを導き出しやすいように、既習事項のページや事柄を繰り返し確認せたり、各生徒やグループの発表後に、重要な項目や焦点が薄れた項目などを再度教師が確認しながら提示したりすることで、必要な知識について確認を行う。また、より具体的な事例等で理解を図る。

8 評価を進める上での留意事項

- (1) 単元においては、前半2時間の講義形式での関心・意欲・態度、思考・判断を授業観察によって評価し、知識・理解についてはノート等の記述を中心に顕著なもののみ記録する。後半2時間は活動に現われる関心・意欲・態度の部分を観察によって評価するとともに、思考の部分については、ワークシートへの書き込みや発表の観察分析によって評価する。
- (2) 顕著な成果や活動の見られたものを中心に補助簿によって記録することで、指導が評価によって疎かにならないよう配慮する。
- (3) 今回の定期テストにおいては思考・判断と知識理解の割合をおよそ1対2となるよう作問し、正解の割合が8割以上でA、5割以上をBと判断した。

9 教師用補助簿と記入上の留意事項例

「十分達成」◎印3点,「おおむね達成」は無印2点,「努力を要する」は△1点の3段階で評価した。

(記録を取っていなかった生徒もしくは項目については－印)

(例) 記号(◎など)の黒表示は授業中のチェック 青表示は授業後のチェック〈点数化を用いた例〉

生徒一人ごとに、各観点の平均点を合計したもの。分母の観点評価の回数が違うので通分し180点満点となっている。										
20点中10点なのでB評価となり、毎時における無印と同じ配点に換算し2点とする				観点別評価の機会が4ないし5回(時間)あったので分母とし、分子は観点別評価のA～Cを点数化した合計						
30点満点の保健のテストの中で配点が20点であり、そのうち10点を取った。				◎3点, 無印2点, △1点として4時間分の観点別評価を合計						
生徒	評価の観点	第1時	第2時	第3時	第4時	検査点	評価	観点合計点 毎時+検査	観点ごと 平均点	観点合計平均 点180満点
あ	ア関・意・態		◎	◎	◎	－	－	11	11/4	139/20
	イ思・判					10/20	B	8+2=10	10/5	
	ウ知・理			◎		5/10	B	9+2=11	11/5	
い	ア関・意・態	◎	◎	◎	◎	－	－	12	12/4	156/20
	イ思・判				◎	20/20	A	9+3=12	12/5	
	ウ知・理			◎		10/10	A	9+3=12	12/5	
う	ア関・意・態	△	△		◎	－	－	7	7/4	103/20
	イ思・判	△	△	◎		10/20	B	7+2=9	9/5	
	ウ知・理				△	3/10	C	7+1=8	8/5	
え	ア関・意・態	△	△	◎		－	－	7	7/4	91/20
	イ思・判		△		△	0/20	C	6+1=7	7/5	
	ウ知・理	△		△		3/10	C	6+1=7	7/5	

留意事項

- (1) 毎時間全ての観点について全員を評価するのではなく、その授業のポイントを押さえて評価をする。ただし、授業中にポイント以外の観点で顕著な動きがあったときは記録を残す。
- (2) 授業後に、ワークシートや授業中の様子のふり返しを行い、必要な記録を残す。
- (3) 評定はこの場合は得点に置き換えて総得点で判定する。

10 資料・ワークシート，テスト

(1) 資料・ワークシート

ワークシートは最初に全部の設問の入ったものを配布してしまうと授業展開が予想できてしまうので，設問ごとに配布したり，掲示や板書をして読みとらせたりする。

場面設定

彼と彼女は今，高校3年生です。付き合い始めて3ヶ月になります。今日は彼の家に彼女が遊びに行きました。いつものように音楽の話やゲームの話で盛り上がっていると，突然彼が「いいだろう」と肩を抱きしめてキスをしようとしてしました。彼女は思わず手を払い立ち上がってしまいました。

ワークシート① 組 番 氏名

- なぜ彼女は「手を振り払って立ち上がった」のでしょうか。自分の考えを書いてみましょう。
- その時の気持ちはどのようなだったと思いますか。
《彼の気持ち》 《彼女の気持ち》

自己評価カード 組 番 氏名

今日の授業を振り返って自分の授業への取り組みの様子を採点しよう。(A=ちゃんと取り組めた B=普通に取り組んだ C=ちゃんと取り組めなかった)

今日の学習を終えて，自分自身の行動面に生かせることはあるだろうか書き出してみよう。

評価項目	自己評価
自ら意欲的に取り組むことができたか。	
他の人の意見を取り入れて考えたか。	
授業前より知識が深まったか。	
授業前と考えの違いが生れたか。	
自分の考えをまとめられたか。	

ワークシート② 組 番 氏名

ワークシート①で考えたお互いの今の気持ちを考えながら，彼や彼女の現在の気持ちを考えながら，このあとのシナリオを作ってみよう。

ワークシート③ 組 番 氏名

シナリオへの感想

- 異性のグループが書いたシナリオに対して，あなたはどんな感想を持ちましたか，男子は男子，女子は女子の立場から感想をまとめよう（登場人物の立場にたって思いやる気持ちを忘れずに）
- 自分ならどこをどう直して欲しいか，書き出しましょう。できれば理由も書いてあげましょう。

ワークシート④ 組 番 氏名

- チェックをされて分かった男性・女性の考え方感じ方の違いを書き出してみよう。
- この学習を通してわかった男女の行動の違いや異性への関心持ち方の違いはなんだろうか，まとめてみよう。

(2) テスト（定期テスト）の設問例

〈思考・判断〉

- あなたの友人（Aさん）は彼氏が出来てちょうどひと月ぐらいです。Aさんの彼氏（B君）は，最近デートの際に手を握ったり，肩を抱いたりするようになってきました。先日も，夕方人気のない公園で抱きしめられそうになったので，思わず立ち上がってしまったことがあったそうです。Aさんは受験も控えているし，この先を考えると，いまは性的な関係は早いと思っているし，もう少し大事につきあってほしいと思っています。そんなある日，友人Aさんが次のような相談をあなたにしてみました。

【相談の内容】

彼氏のB君が，「明日のお祭りのあとにうちへ遊びに来ないか，8時30頃ならちょうど親もいないから，おまえも門限を遅くしてもらえよ！俺のこと嫌いになったのか？つきあってるんだからいいじゃん。」と誘ってきたのだけれど，どうしたらいいだろうか。

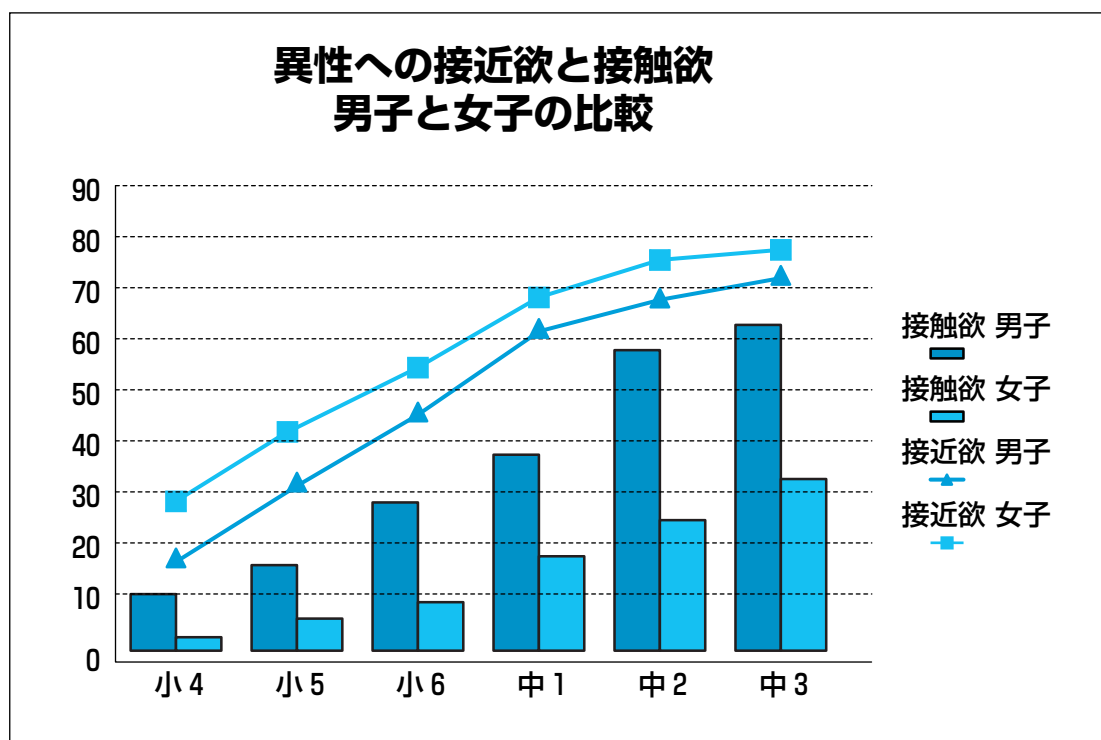
女子への質問 あなたならどのようなアドバイスをしてあげますか。

男子への質問 B君が、後日「彼女は来てくれなかった」と君に打ち明けてくれました。そして「どうしてだろうか？」と相談してきました。あなたならどのように話してあげますか。

※【評価の観点】学習した事柄のみを書き並べたアドバイスの場合にはB，実際の生活や友だちやその彼氏の立場や気持ちを思いやったり，自己の考えを含めてアドバイスしていた場合にはA

2 以下のグラフは男女別に調べた「異性への接近欲と接触欲の年齢別の変化」を表したグラフです。これを見ながら，質問に答えなさい。

- ① グラフから男女の接近欲の違いについてどのようなことが分かりますか。
- ② 男子と女子の接近欲と接触欲の違いから異性との付き合いにおいてどのようなことを配慮していく必要がありますか。
- ③ あなたが日常生活の中で具体的に実践している，もしくは実践しようとしている異性への思いやりのある行動を書いてください。



1999年調査「児童・生徒の性」学校図書
(東京都幼・小・中・高・心障学級・養護学校の性意識・性行動に関する調査報告 学校図書より)

接近欲：異性と親しくなりたいと思ったことがある。
接触欲：異性のからだに触れてみたいと思ったことがある。

※【評価の観点】学習した事柄の範囲で解答していた場合B，実際の生活の場面や異性の感情や立場にふれたり，自分の考えを含めたりして解答していた場合はA

【実践2】 第2学年「健康と環境」

1 単元名 第2学年「健康と環境」(全8時間)

「健康と環境」では、実践力の形成のために課題学習による学習が求められており、課題学習による実践例が数多く見られる。しかし、課題学習では、個人やグループにより意欲や進行状況に差が生じるため、その評価と支援のあり方が重要になる。また、個人やグループにより学習内容が異なるが、クラス全体としての本単元に関する基礎基本の学習は保障しなければならない。これらの課題に答えるためにも、課題学習における指導と評価について述べることは意義深いものとする。

本授業では、単元全体を課題学習により進めたが、指導と評価の有効性を高めるために以下のよう工夫した。まずグループ編成については、生活班による編成が現実的との意見もあるが、生徒の興味や関心が学習の原動力になると考え、興味や関心に応じて編成した。さらに、各グループに応じた評価と支援をより細やかに行うために、様々なワークシートを活用し、記述に対する教師からのフィードバックを丁寧に行った。また、学級全体での自己評価や相互評価、基礎基本の学習を促すため、中盤において中間発表の機会を設けた。加えて、本発表やまとめにおいても、理解の深化や補足を行った。

2 目 標

- (1) 健康と環境に関わる身近な課題をさがし、その課題の解決に取り組もうとする。(関心・意欲・態度)
- (2) 自分の経験や地域の様子、教科書などの資料をもとに、課題解決の方法を選ぶことができる。(思考・判断)
- (3) 環境と人間の健康は密接に関わり、保持改善する必要があることを知っている。(知識・理解)

3 評価と支援のポイント

(1) 生徒の立場から

- ① 身体には、環境に対してある程度まで適応能力があり、また、快適で能率のよい生活を送るための温度、湿度や明るさには一定の範囲があることを理解し、環境が健康に影響することに関心をもてる。
- ② 空気や飲料水は、健康と密接なかわりがあることから、衛生的な基準に適合するよう管理する必要があることを理解し、衛生的な空気や飲料水の管理に関心をもてる。
- ③ 人間の生活によって生じた廃棄物は、衛生的に、また、環境の保全に十分配慮し、環境を汚染しないように処理する必要があることを理解し、ごみの分別など発生源における個人の努力が必要なことに気づく。
- ④ 自己評価カードの項目(今日の課題(めあて)がわかって学習を進めることができたか、考えあったり話しあったりしながら学習を進めたか、学習の内容がわかったか、最後まで一生懸命に調べ考えられたか)

(2) 指導者の立場から

- ① 課題追求の過程における、段階に応じた支援の在り方について探る。

評価と支援の留意点

- 課題設定にあたり，身近な課題を設定させ意欲を喚起する。（支援）
 - 学習効果を高める班編成をするため，興味・関心に応じた班を編成する。（支援）
 - 班で予想を立て，なにをどのような方法で調べるかを具体的に話しあい計画を立てる。（支援）
 - 毎回の授業を他人まかせにならないよう班での役割分担をはっきりさせ，個人ごとに課題に取り組めるようワークシートの記入活用を十分に心がける。（支援）
 - 教科書で扱われており，かつ授業では取り上げられなかった内容は，説明を加え指導する。（支援）
 - 班や個人の進行状況や役割に応じた個別的支援の充実のため，生徒のワークシートへの記述に対して教師が書き込みを行うなど，積極的にフィードバックを行う。（評価）
- ② 指導に生かす評価の在り方について探る。

授業を始めるに当たって	興味・関心についてのアンケート，教師による観察
授業に際して	ワークシート，自己評価カード，教師による観察，中間発表後のアンケート
授業を総括して	自己評価カード，ワークシート・レポート，ペーパーテスト，感想・アンケート

4 単元の評価規準（おおむね満足できる状況(B)と判断できる子どもの姿の具体例)

観点項目	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 知識・理解
単元の評価規準	身体環境に対する適応能力，空気・飲料水の衛生的管理や廃棄物の適切な処理と人間の健康について関心を持ち，仲間と協力して資料を集めたり，意見を交換しながら課題を見つけ，意欲的に学習しようとしている。	身体環境に対する適応能力，空気・飲料水の衛生的管理や廃棄物の適切な処理と人間の健康について，自分の知識や経験，資料，仲間の意見や考えなどをもとに課題を設定し，適切な課題解決の方法を考え，判断できる。	人間の健康は環境と深くかかわって成立しており，身体には環境に対する適応能力があること，空気・飲料水の衛生的管理や廃棄物の適切な処理が必要であることを科学的に理解し，日常生活の課題解決に役立つ知識を身に付けている。
学習活動における具体的評価規準	① 健康と環境の関わりについて資料を見たり，自分の日常生活を振り返りながら課題をさがそうとしている。 ② 健康と環境の関わりについて教師や仲間と共に活動しようしたり，教科書などの資料を読んだりして課題の解決に取り組み，課題について調べようとしている。 ③ 集めた資料を活用したり，健康と環境に関する仲間の意見を聞いたりしながら，自分の考えや意見をまとめ，発表しようとしている。	① 健康と環境について，自分の日常生活等を振り返り，問題点を見つけ課題を選ぶことができる。 ② 教師や仲間と共に，自分の経験や地域の様子，教科書などの資料をもとに，予想したり整理したりして課題解決の方法を選ぶことができる。 ③ 健康と環境について学習したことを日常生活にあてはめることができる。	① 人間の健康は環境と深くかかわって成立しており，身体には環境に対する適応能力があることを知っている。 ② 人間の生命の維持や健康に密接に関わりのある空気や飲料水が，衛生的に管理されていることを知っている。 ③ 心身の健康を保持増進するため，生活に伴って生じる廃棄物を適切に処理し，環境を衛生的に保つ必要があることを知っている。

5 学習活動と評価方法の計画

単元指導計画

時間	主な学習活動	◇ = 学習活動 • = 教師の支援	評価方法と規準
1	オリエンテーション 課題の把握 課題設定と 課題解決の計画づくり	◇ 課題を選ぶにあたり、動機レディネスアンケートをする。 ◇ 「健康と環境」について学習する意義をしっかりと把握する。 ◇ 課題学習の進め方等について説明し、その方法を理解し学習の見通しを持つ。 • ワークシートの書き方を十分に指導しておく。 ◇ 学習効果を高める班編成をするため、興味・関心に応じた班を編成する。 • 教師の発問、具体物や・キーワードをもとに、身近な課題を設定できるように支援する。例えば、分別やリサイクルを例に出したり様々な測定を行うことにより、意欲の喚起をはかり、身近な問題に目を向けさせる。 • 課題の適切性や計画の適切性を、授業中や授業後にワークシートと授業の参加状況により判断し、軌道修正できるように指導助言する。 ◇ 班で予想を立て、なにをどのような方法で調べるかを具体的に話しあい計画を立てる。 • 実際の調査方法（文献・インターネット）等、実物での提示をし、具体的にとらえられるよう支援する。 ◇ 他人まかせにならないよう班での役割分担をはっきりさせ、個人ごとに課題に取り組めるようワークシートの記入活用を十分に心がける。	* 興味・関心についてのアンケート。 * 教師による観察。 ア－① 課題をさがそうとしている。（観察・ワークシート） イ－① キーワードをもとに課題を選ぼうとしている。（観察・ワークシート） * 本時のワークシートの内容に記載された指導が次時にどう反映されたか、コメントを記入したワークシートより学習内容を把握し、次時の活動を観察する。（授業後）
2・3	課題の解決（第一次）	◇ インターネットの利用や参考文献等、関係資料を探すなどし、課題解決に取り組む。 • 主体的に課題解決に取り組んでいる班への指導は確認程度にとどめ、計画どおりにいかない班には、調べる内容について具体的に再度確認し指導・助言する。	ア－② 課題について調べようとしている。（観察・ワークシート）・③ 発表の準備をしようとしている。（観察・ワークシート） イ－② 課題解決の方法を選ぼうとしている。（観察・ワークシート）

2・3		- 資料を探せず班の活動が停滞している班には適宜指導するが、調べる内容についてはできるだけ生徒の主体性を生かせるよう支援する。 - 個人ごとの進捗、特に班における個人の役割の進行状況に対し、他の班員との相談や意見交換を促すよう指導する。 - 解決の見通しがもてない班には個別に指導・助言する。 - 発表の準備ができているのか確認する。	ークシート) 本時のワークシートの内容に記載された指導が次時にどう反映されたか、コメントを記入したワークシートより学習内容を把握し、次時の活動を観察する。(授業後)
4	中間発表	◇ 他のグループに対して質問し、自分たちの課題や解決方法を再検討できる。 - 発表では調べる内容や進め方に差が出ることが予想されるが、各班のよさをとらえ、第二次解決への意欲づけが図れるよう支援する。 - 各班の発表内容から、生徒にとらえてほしい内容及び方向性などを再確認できるよう指導・助言する。	アー③ 集めた資料を活用し自分の考えや意見をまとめ発表しようとしている。(観察・プレゼンテーション) イー③ 発表内容に対し、日常生活にあてはめようとしている。(観察) 本時のワークシートの内容に記載された指導が次時にどう反映されたか、コメントを記入したワークシートより学習内容を把握し、次時の活動を観察する。(授業後) ウー①・②・③ 発表をもとに、健康と環境のことについて知っている。(観察・中間発表資料)
5・6	課題の解決(第二次)と発表資料のまとめ	中間発表を受け、より身近な内容へと考え、生活に結びつけることにより、一層の意欲づけが図れるよう支援する。 ◇ 校内外の空気や水などのサンプリングの測定をする。 ◇ 関係機関への問い合わせ・文献・ネット検索資料等、資料収集をする。 ◇ 家庭や学校が環境にどう対応しているか調査し、立場の違う対比する人(家庭では父母)にインタビューをし(関心の度合いや、実際のゴミ分別等)それぞれの考え方やとらえ方の違いを明らかにする。 ◇ 調査と平行し、調べた内容を身近な生活と結びつけるために「水質検査」「ガス検知」「温度」「湿度」「照度」の測定を取り入れる。	- ワークシート。(中間発表後の様子)(授業後) - 自己評価カード。(授業後) - 教師による観察。 アー② 課題について調べようとしている。(観察・ワークシート)・③ 発表の準備をしようとしている。(観察・ワークシート) イー② 課題解決の方法を選ぼうとしている。(観察・ワークシート) - 内容に深まりのない班の指標として、調査内容の転記や、インターネットや図書の写し書きのみで自分の生活に関連づけられず具体的方策等、提言できない状

5・6		- 測定用具は教師が準備し、やり方についても指導する。 ◇ 班で考えた予想を大切に、調べた内容をグラフや表にあらわすなど、理解しやすいよう整理やまとめをし、本発表への準備をする。 - 調べた内容に深まりのない班に対しては、資料等の活用について積極的に助言する。 「このようなことがわかりました。だから～したい。だから～だと思えます。」だから～しようと思えます。と提言できる表現に持っていけるよう助言する。	態とする。 * 本時のワークシートの内容に記載された指導が次時にどう反映されたか、コメントを記入したワークシートより学習内容を把握し、次時の活動を観察する。(授業後)
7	本発表	◇ 測定結果のグラフや表の掲示による発表をする。 ◇ 発表を通し自分たちの考え方やとらえ方を明らかにする。 発表内容や教師からのアドバイス等、健康に対する環境の関わり方への認識や、考えの深まりを記録するよう助言する。	アー③ 理解しやすく発表しようとしている。(観察・プレゼンテーション) イー③ 日常生活を振り返ろうとしている。(観察・ワークシート) * 本時のワークシートの内容に記載された指導が次時にどう反映されたか、コメントを記入したワークシートより学習内容を把握し、次時の活動を観察する。(授業後) ウー①・②・③ 発表をもとに、健康と環境のことについて知っている。(観察・発表資料)
8	まとめ	◇ 班ごとに学習活動のまとめとし、健康を保持増進するための、環境との関わりに視点を置き、改善項目・予防対策を挙げられるよう助言する。 ◇ まとめのペーパーテストをする。 - 発表内容に、とらえて欲しい内容が含まれていなかったり、さらに深めてとらえさせたかったりする内容については、教師が補足説明をする。 - 教科書で扱われており、かつ授業では取り上げられなかった内容は、説明を加え指導する。	* 自己評価カード (授業後) * ワークシート, レポート (授業後) * ペーパーテスト (授業後) * 感想, アンケート (授業後) イー③ 学習したことをもとに健康と環境のかかわりを保持・改善できる生活行動を考えている。(レポート) ウー①・②・③ 学習したことをもとに、健康と環境のことについて知っている。(レポート・まとめのテスト)

※ 観点別視点は複数でくくる。

6 展開例

第5時 「本時の計画（5／8）」

観点別のねらい

- ◎ 教師や仲間と共に活動しようとし、教科書などの資料より課題を調べようとしている。（関心・意欲・態度）
- 測定・関係機関への問い合わせ・文献・インタビュー・ネット検索資料等、自分の経験や地域の様子などをもとに、予想したり整理したりして適切な課題解決方法を選ぶことができる。（思考・判断）
- 文献・インタビュー・ネット検索資料等、課題を解決できる適切な利用方法を知っている。（知識・理解）

努力を要する生徒（C）への働きかけ
・ゴミの分別一覧をパンフレットで示し、具体性を高める。

「日常生活を振り返ってみよう」

- ・家庭のゴミの分別の確認（ビニールと紙は一緒に捨てますか？）
- ・学校のゴミの分別の確認（技術員さんに聞いてみよう）

「分別の必要性を考えてみよう」

- ・しないと困ること、すると良いことは何ですか？（ゴミの処理方法などについて考える）

「リサイクル・リユースがもたらす利点をあげてみよう」

- ・このゴミはどの種類に分別されますか？



本時の自分の課題を確認できるよう支援する。

関係機関への問い合わせ・文献・ネット検索資料等、資料収集ができるよう支援する。

時間	学習活動	教師の支援
5	本時の課題確認	本時の自分の課題を確認できるよう支援する。
40	1 課題の解決（第二次）と発表資料のまとめ 2 測定による検証をする（「水質検査」「ガス検知」「温度」「湿度」「照度」） 3 文献・ネットワーク等による調査・研究 4 本発表に向けたまとめに取りかかる 5 提言できるよう準備する	・調査と平行し、調べた内容を身近な生活と結びつけるために「水質検査」「ガス検知」「温度」「湿度」「照度」の測定を取り入れられるよう支援する。 ・測定に関しては、養護教諭の先生に用具の準備とやり方についてご協力をいただく。 ・関係機関への問い合わせ・文献・ネット検索資料等、資料収集ができるよう支援する。 ・家庭や学校が環境にどう対応しているか調査し、立場の違う対比する人（家庭では父母）にインタビュー（関心の度合いや、実際のゴミ分別等）ができるよう支援する。 ・「この人はこう言うけど、その理由はこうなんだ。でも、この人はこんな理由でこんなことを言う。なるほどこの問題はこうなっているんだ。と具体的説得力のある内容に持っていく。」 ・班で考えた予想を大切に調べた内容をグラフや表にあらわし、理解しやすいまとめ方をし、本発表への準備ができるよう支援する。 ・課題を発展させ、より身近な内容へと考え、生活に結びつけることにより、一層の意欲づけが図れるよう支援する。 「ポケットカメラで回収された電池は、使えなくなったわけではないので、リサイクルされる。何回使えるはずの物なのですか？そんなに余分に作る必要はないのではないのでしょうか？」 ・調べた内容に深まりのない班に対しては、資料等の活用について積極的に助言する。 ・「このようなことが分かりました。だから～したい。だから～だと思います。だから～しようと思います。」と提言できる表現に持っていけるよう助言する。」
5	本時のまとめ ワークシートの確認 次時の予告	・本時のまとめができるよう支援する。 ・ワークシートの確認ができるよう支援する。 ・次時の確認ができるよう支援する。 ・本時のまとめと次時の内容が把握できるよう支援する。
授業後・学習後の評価活動		① 養護教諭と技術員さんに生徒の活動状況を聞き、その様子 ② ワークシートから次時への支援をみつけアドバイスを書く。 ③ 健康と環境に関わる事項において、知っている程度の状況 ④ 単元後のペーパーテスト



評価方法	
- ワークシート。(中間発表後の様子) - 自己評価カード。 - 教師による観察。	
ア-② 班の人と共に資料などを读んだりして、課題について調べようとしている。(観察・ワークシート) イ-② 測定を取り入れたり、関係機関に問い合わせしたりするなど、解決の方法を選ぼうとしている。(観察・ワークシート) ワークシートへの記入。	
- 本時のまとめができたか。 - ワークシートに記入できたか。 - 次時の予告を確認できたか。	
を「関」や「知」などで判断し評価に絡める。 を「B」, その内容を説明できる状況を「A」とする。	



測定に関しては、養護教諭の先生に用具の準備と使い方についてご協力をいただく。



調査と平行し、調べた内容を身近な生活と結びつけるために「水質検査」「ガス検知」「温度」「湿度」「照度」の測定を取り入れられるよう支援する。



家庭や学校が環境にどう対応しているか調査し、立場の違う対比する人(家庭では父母)にインタビュー(関心の度合いや、実際のゴミ分別等)ができるよう支援する。

7 観点別学習状況の評価の進め方

(1) 基本的な考え方

本單元では、現在及び将来の健康の問題に自ら進んで取り組み、自分で解決できる資質や能力を育てるため、課題学習を取り入れる。学習活動を「課題設定」→「課題解決」→「中間発表と第二次課題把握」→「第二次課題解決」→「本発表」→「まとめ」とし、自主的・自発的な学習になるよう、学習活動に応じた評価を行う。その際、「学習活動における具体の評価規準」を「おおむね満足できる」状況とし、9つの具体の評価規準にあわせて「十分満足できる」状況を設定し、学習活動に応じて観点をしばって評価を行う。

(2) 「十分満足できる」状況を実現していると判断した子どもの姿の具体例

ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 知識・理解
① 健康と環境について自ら資料を集め、社会の状況を考えながら、課題をさがそうとしている。 ② 積極的に仲間や地域社会等との関わりをもち、必要な資料を収集するなど、自分で工夫して調べようとしている。 ③ 集めた資料を活用したり、仲間の健康と環境に関する意見を聞いたりしながら、自分の考えや意見をまとめ、よりよい意見に発展させ、発表しようとしている。	① 健康と環境について、自分の日常生活等を振り返り、問題点を見つけ、仲間と意見交換をしながら、課題を持つことができる。 ② 教師や仲間と共に、経験したことや地域の様子を考えた、自分で収集した資料や教科書をもとに、予想したり整理したりして、課題解決の方法を工夫することができる。 ③ 健康と環境について学習したことを、日常生活にあてはめ、適切な行動を選択することができる。	① 人間の健康は環境と深くかわって成立しており、身体には環境に対する適応能力があることを知り、具体例をあげて説明できる。 ② 人間の生命の維持や健康に密接に関わりのある空気や飲料水が衛生的に管理されていることを知り、具体例をあげて説明できる。 ③ 心身の健康を保持増進するため、生活に伴って生じる廃棄物を適切に処理し、環境を衛生的に保つ必要があることを知り、具体例をあげて説明できる。

※「努力を要する」状況と判断する子どもの具体例は省略

(3) 評価の方法

班を編成し学習を進めるが、一人一人を見ていくために多様な評価方法を工夫し、組み合わせて評価する。ワークシートについては、生徒に、毎時間記入させるが、学習の内容により、複数時間をまとめた観点別評価（第2・3時、第5・6時）を実施する。

「関心・意欲・態度」「思考・判断」の評価について

- 班での話し合いや学級での意見交換などを中心に教師の観察によって評価していくが、その際、教師の評価簿（座席表等）に評価規準の「十分満足できる」「努力を要する」状況の生徒を中心に記載する。また、一人一人の生徒を多面的に評価するために個人のワークシート（自

己評価カード、感想記録ノートなど）を用意し、毎時間記入させ、その内容により評価する。
「思考・判断」の評価について

- まとめの学習（テスト）による評価も行う。

「知識・理解」の評価について

- 発表の内容・発表資料及びまとめの学習（テスト）の確認をもとに評価する。なお、発表については班のテーマに関する知識理解を対象とする。

(4) 努力を要すると評価した子どもへの指導の手だてについて

その生徒の状況に即して、より具体的な資料を提示したり、学習の進め方について助言したり、生徒と共に具体的な生活場面を想起したりして学習が円滑に進められるようにする。特に、課題を見直してやり、より身近な課題で行ったり、健康に対する一般的な考え等を複数提示してやったりして、その中から選択させる。また、調査・測定結果それらに対する予想や解決の方法、そして検証の方法までを一緒に考えてやり課題が解決できるよう助言する。

- 意欲・態度について

例えば、健康と環境について、課題に対する意識が高まらず、自分で課題を見つけようとしていない生徒については、自分の生活を振り返らせたり、課題となる場면을提示したり、一緒に考えたり、励ましたりして関心や意欲を起こさせ、学習に進んで取り組むようにする必要がある。また、班のリーダー的存在の生徒には、生徒同士の声かけや教え合い等を活発に行うように指導する必要がある。

- 思考・判断について

例えば、健康と環境について、問題点が見つけられず、予想したり、分析したりできない生徒については、個別の具体的な資料を提示したり、仲間の意見を聞くことをすすめたりして、予想したり、分析したりできるようにする必要がある。

特に、Cの生徒への配慮としては、課題そのものを設定するにあたり具体的課題を設定できるように支援する必要がある。例えば、適応能力や至適範囲に関する課題よりも、日常生活で話題性の高い廃棄物の分別処理等、に限定したほうが話題性・情報（資料）が豊富に提供されている。それらを有効活用させられるよう、初めのうちは資料を提示し、段階を追って自主活動に移行できるよう指導する。

- 知識・理解について

例えば、健康と環境について、用語をあげられる程度に止まっている生徒については、各班の発表資料をもう一度見直させ、確認することによって再度整理し、生徒の理解の程度に応じて補足説明をして理解できるようにする必要がある。

8 評価を進める上での留意事項

- (1) 観点ごとに複数時間まとめて行った評価を加算する方法により観点ごとの単元の評価を行う。その際、第7時の「知識・理解」に関する評価については、第8時の「知識・理解」の評価より重みを持たせることから、2倍と考える。
- (2) 観点ごとの単元の評価の比重は同じものと考え、観点ごとの単元の評価を得点化する。

9 教師用補助簿－1

(観点別学習状況評価簿で健康と環境の総括表として活用し、個人票は各時間ごと座席表に記入する。十分達成は◎，おおむね達成は○，努力を要するは△の3段階で記入する。)

生徒	評価の観点	第1時			第2・3時			第4時			第5・6時			第7時			第8時			観点ごとの単元の評価
		①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	
あ	ア関・意・態	○	-	-	-	◎		-	-	-	-	◎		-	-	◎	-	-	-	A
	イ思・判	○	-	-	-	○	-	-	◎	-	-	◎		-	-	◎	-	-	◎	A
	ウ知・理	-	-	-	-	-	-	◎			-	-	-	○			◎			A
い	ア関・意・態	○	-	-	-	○		-	-	-	-	○		-	-	◎	-	-	-	B
	イ思・判	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	△		-	-	◎	-	-	◎	B
	ウ知・理	-	-	-	-	-	-	○			-	-	-	○			◎			B
う	ア関・意・態	◎	-	-	-	○		-	-	-	-	◎		-	-	◎	-	-	-	A
	イ思・判	◎	-	-	-	○	-	-	○	-	-	○		-	-	○	-	-	○	B
	ウ知・理	-	-	-	-	-	-	○			-	-	-	○			△			B
え	ア関・意・態	◎	-	-	-	○		-	-	-	-	◎		-	-	◎	-	-	-	A
	イ思・判	◎	-	-	-	○	-	-	○	-	-	○		-	-	○	-	-	○	B
	ウ知・理	-	-	-	-	-	-	○			-	-	-	◎			◎			A
お	ア関・意・態	○	-	-	-	○		-	-	-	-	◎		-	-	○	-	-	-	B
	イ思・判	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	○		-	-	○	-	-	○	B
	ウ知・理	-	-	-	-	-	-	△			-	-	-	◎			○			B

※ [] = 観点別視点は複数でくくり、いずれも1つ分とみなす。

(1) 学習の内容ごとに、◎「十分達成」○「おおむね達成」△「努力を要する」の3段階で評価する。

(2) 観点ごとの単元の評価は、

A = 「十分満足している」…「◎が過半数の場合」。ただし、「△がある場合は◎とセットにして○2つとし、それでも◎が過半数になった場合」とする。

C = 「努力を要している」…「△が過半数の場合」。ただし、「◎がある場合は△とセットにして○2つとし、それでも△が過半数になった場合」とする。

B = 「おおむね満足している」…上記A・C以外のもの。

(例) 生徒2 イ思・判の第5・6時△と第8時◎とで○2つとし、○5つで評価はBとなる。

(例) 生徒5 ウ知・理の第4時△と第7時◎とで○2つとし、○3つで評価はBとなる。

10 教師用補助簿－2 (座席表, 各時間ごとの個人票)

黒 板							
環境 太郎	健康 花子	生徒 氏名	d	e	f	g	h
リサイクル	リサイクル	水	D	E	F	G	H
①	① ◎	① △	① △	①	①	①	①
②	②	②	②	②	②	②	②
③	③ PC ok	③ ちび話の けやろ	③ 支援が大事	③	③	③	③
i	j	k	l	m	n	o	p
I	J	K	L	M	N	O	P
リサイクル	リサイクル	水	水	地球温暖化	地球温暖化	大気汚染	大気汚染
①	①	① ◎	① ◎	①	① △	①	①
②	②	② 浮気いかに せしやろ	②	②	② かんね	②	②
③	③	③ 調々 ok	③	③	③ 興味を引く	③	③
リサイクル	リサイクル	ゴミ	ゴミ	地球温暖化	地球温暖化	大気汚染	大気汚染
①	① ◎	① ◎	① ◎	①	① ◎	① ◎	① ◎
②	②	②	②	②	② 4年生の調子 分かった	②	②
③	③ リサイクル項目 目のつかる ok	③	③	③	③ 資料活用 ok	③ 協力	③ 協力
水	水	酸性雨	ゴミ	地球温暖化	大気汚染	大気汚染	大気汚染
①	①	①	① ◎	①	①	① ◎	① ◎
② 杉の木の 木を伐る?	②	②	② 分別の徹底 を促す	②	②	②	②
③	③	③	③ ok	③	③	③ 協力	③ 協力
熱中症	熱中症	酸性雨	酸性雨	大気汚染	大気汚染	大気汚染	本 時 の 教師のコメント 中間発表に より他のクラス から数回 課題の再確認 計画の見直し有
①	① ◎	① ◎	① ◎	① ◎	①	①	
②	②	②	②	②	②	②	
③	③ PC ok	③ フレゼン 最高	③	③ 資料活用 ok	③	③	

①＝ア 関心・意欲・態度 イ 思考・判断 ウ 知識・理解について, ◎・△について記入する。
 ②＝生徒のコメントを記入する。
 ③＝教師のコメントを記入する。

水・6班

健康と環境, ワークシート【計画書4】

私たちの課題（キーワード）

キーワード

水の汚染

4時間目：中間発表

班員名簿

1時間目 11月5日	2時間目 11月8日	3時間目 11月13日	4時間目 11月26日	5時間目 11月29日	6時間目 月 日	7時間目 月 日	8時間目 月 日
・オリエンテーション ・課題の決定 ・計画書の作成	・課題の解決	・課題の解決と まとめ	・中間発表 ・二次課題の把握	・二次課題の 決定と解決	・二次課題の 解決とまとめ	・本発表	・まとめの学習

中 間 発 表 を 受 け て	中 間 発 表 を 受 け て
新たに分かったこと・他の班への質問	発表を聞いての感想
・ダイオキシンと酸性雨は、関係があることがわかった。 ・オゾン層は何でできているのか。	・どの班も、きれいにまとまっていた。 ・健康と環境について、考えさせられた。 ・今まで気にしてなかったことをこれから気をつけようと思った。

中 間 発 表 を 受 け て 二 次 課 題 の 設 定	中 間 発 表 を 受 け て 二 次 課 題 の 設 定
課 題 「何について調べるか」	方 法 分 担 「どのように誰が調べるか」
浄水場のしくみ について	パソコン・文けん・パンフレット やビデオで調べる。
おいしい水 (体にいい水とはどんな水か)	・パソコンや先生に聞いたりする。 ・パンフレットやビデオで調べる。

先生より

現在は水を買ってまで飲む時代です。
なんで水が売れるのかも探ってみましょう。
安全な水やおいしい水(天然水・自然水)
水道水とのちがいを比較してみたいと思います。
みなさんも、買ってまで飲みたくなるかもしれませんよ。

11 参考資料 各時間の学習活動における評価規準（おおむね満足－B）の具体例

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 知識・理解
1時間目	① 健康と環境の関わりについて資料を見て、自分の日常生活を振り返りながら課題をさがそうとしている。	① 健康と環境について、自分の日常生活等を振り返り、問題点や良い点を選ぶことができる。（教師の促し・誘導あり）	① 人間の健康は環境と深くかかわって成立しており、身体には環境に対する適応能力があることを知っている。
2・3時間目	② 教師や仲間と共に活動しようとしたり、教科書などの資料を読んだりして課題の解決に取り組み、課題について調べようとしている。 ③ 集めた資料を活用したり、健康と環境に関する仲間の意見を聞いたりしながら、自分の考えや意見をまとめ、発表する準備をしようとしている。	② 教師や仲間と共に、自分の経験や地域の様子、教科書などの資料をもとに、予想したり整理したりして課題解決の方法を選ぶことができる。 ③ 健康と環境について学習したことを日常生活にあてはめることができる。	② 人間の生命の維持や健康に密接に関わりのある空気や飲料水が、衛生的に管理されていることを知っている。 ③ 心身の健康を保持増進するため、生活に伴って生じる廃棄物を適切に処理し、環境を衛生的に保つ必要があることを知っている。
4時間目	② 他の班の発表を聞き質問したり、自己の課題を再確認したりして、課題を明確化するとともに課題を解決しようとしている。 ③ 集めた資料を活用したり、健康と環境に関する仲間の意見を聞いたりしながら、自分の考えや意見、今まで調べた内容をまとめ、発表しようとしている。	② 発表内容を受け疑問点等質問内容をワークシートに記入でき、健康な生活を送るための適切な方法を選ぶことができる。 ③ 自分の日常生活を振り返りあてはめることができる。	①・②・③ 発表内容について、健康と環境の関わりについて発表グループの方法を知っている。
5・6時間目	① 中間発表を受け、さらに発展した課題をさがそうとしている。 ② 教師や仲間と共に活動しようとし、教科書などの資料より課題を調べようとしている。 ③ 伝達・視覚的表現方法などを工夫し、グラフや表により理解しやすい発表をする準備をしようとしている。	② 測定・関係機関への問い合わせ・文献・インタビュー・ネット検索資料等、自分の経験や地域の様子などをもとに、予想したり整理したりして適切な課題解決方法を選ぶことができる。	①・②・③ 文献・インタビュー・ネット検索資料等、課題を解決できる適切な利用方法を知っている。
7時間目	③ 今まで調べた内容と集めた資料を活用し、仲間の意見や自分の考えを理解しやすく発表しようとしている。	③ 自分の日常生活を振り返り、健康な生活を送るための適切な方法を選ぶことができる。	①・②・③ 発表内容を受け、健康と環境の関わりについて発表グループの内容を知っている。
8時間目	①・②・③ 健康に関わる環境を整え、日常生活に生かされるよう学習に取り組んでいる。	③ 学習した内容を日常生活にあてはめ、健康な生活が送れるよう適切な環境整備等の行動を選択することができる。	①・②・③ 健康は環境と深く関わりがあることを科学的に理解でき、その内容を知っている。

【実践3】 第3学年「健康な生活と疾病の予防」

1 単元名 第3学年『健康な生活と疾病の予防』（全20時間） 小単元 「喫煙・飲酒・薬物乱用と健康」（6時間配当）

日本の青少年の喫煙や飲酒の経験率は決して低い値ではなく、中学期に急増する。また、薬物乱用についても、中・高校生の乱用が報告されており、低年齢化が懸念されている。喫煙、飲酒、薬物乱用はいずれも依存性が強く、健康影響が重大であることから、防止教育が極めて重要である。

以上を踏まえて本授業では、まず、喫煙、飲酒、薬物乱用の心身への健康や社会への悪影響、それらの開始に関わる心理社会的要因について、グループワークを活用しつつ、視聴覚教材や新聞などを用いながら、基礎基本の習得を図った。さらに、ロールプレイングにより、重要な開始要因の一つである「友だちからの誘い」に対する対処について理解を深めた。

喫煙、飲酒、薬物乱用防止において、ロールプレイングを活用した実践は多数報告されている。しかし、ロールプレイングにおける指導の留意点は多岐にわたるため、指導が容易ではないとの意見や具体的方策を求める声が少なからず見られる。指導と評価を一体化した実践の具体的で詳細な記述が強く要望されているわけである。本授業にはそれらに対する提案を示すことも意図されている。

2 目 標

- (1) 喫煙・飲酒・薬物乱用等の健康に与える影響に関心を持ち、仲間と協力して学習を進め、意欲的に取り組もうとしている。（関心・意欲・態度）
- (2) 喫煙・飲酒・薬物乱用等の防止について、自分の知識や経験、資料、仲間の意見などをもとにして、日常生活に当てはめたり、適切な対処法について考えたりすることができる。（思考・判断）
- (3) 喫煙・飲酒・薬物乱用等の行為は心身に様々な影響を与えることや、誘いに対して適切な意志決定と行動選択が必要であることを理解する。（知識・理解）

3 評価と支援のポイント

(1) 生徒の立場から

- ① 喫煙・飲酒・薬物乱用の誘いに対して適切な対処ができるようになるために、正しい知識をしっかりと身に付ける。
- ② 小グループで、意見を言ったり、話し合ったりすることにより、知識・認識を広げていくことができ、関心が高まる。
- ③ 新聞記事や色々な事例、身の回りの人からの誘いや広告・CM、自動販売機の実態等から、喫煙・飲酒・薬物乱用の行為のきっかけとなる心理社会的要因について、グループで討議し、考えることで思考・判断が深まる。
- ④ シナリオを使って誘いへの対処についてロールプレイング（役割演技法）を行い、その対処の仕方が適切かどうか評価し合い、改善することから実践力を高める。

(2) 指導者の立場から（指導と評価の一体化による観点から）

- ① 授業展開の過程における生徒の段階的実態に応じた支援の在り方
 - 喫煙・飲酒・薬物乱用についてのレディネス調査をし、生徒の知識・認識の程度、興味・関心の実態を把握しておく。（評価）
 - 喫煙・飲酒・薬物乱用の心身への影響や健康被害について、実験やコンピュータVTR等を活用して生徒の関心・意欲を高め、正しい知識をしっかりと身に付けさせる。（支援）
 - 「課題把握」では、ロールプレイング（役割演技法、以下省略）につなげるために、『健康を損なう原因になることがわかっていて、なぜそのような行為をするのか』を考えさせることも効果的と思われる。経験者に聞いてみることも1つの方法である。また、日本のCMと外国のCMを比較し、CMや広告に潜む罠についても理解させる。（支援）
 - コンピュータやVTRを使って、誘いに対する断り方をくり返し体験し、自分自身で誘いを断るシナリオを作成することにより、適切な断り方について考えさせる。（支援）
 - ロールプレイングの時、「誘い役」「断り役」以外は「観察者」として参加し、他の生徒の断

り方を肯定的に評価することにより、意識を高めさせる。単なる傍観者にならないように注意する。(評価、支援)

- ロールプレイングにおいて重要である自己評価・相互評価のあり方を具体化する。(評価)
②指導に生かす評価の在り方や方法について探る。

授業を始めるにあたって	喫煙、飲酒、薬物乱用に対する意識および理解の調査
授業に際して	ワークシート、自己評価・相互評価シートによる分析、教師による観察
授業を総括して	授業観察の集計、ワークシート、自己評価・相互評価の分析、ペーパーテスト

4 単元の評価規準（おおむね満足できる状況(B)と判断できる子どもの姿の具体例)

	健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
単元 の評価 規準	健康の保持増進のために必要な生活行動や疾病の予防について関心をもち、仲間と協力して資料を集めたり、意見を交換したりしながら課題を探し、意欲的に学習しようとする。	健康の保持増進のために必要な生活行動や疾病の予防について、自分の知識や経験、資料、仲間の意見や考えなどをもとにして、科学的に考え、選択すべき行動を判断できる。	健康の保持増進のために必要な生活行動や疾病の予防について、科学的に理解し、日常生活の課題に役立つ知識を身に付けている。
学習活動における 具体の評価規準の例 (単元)	① 健康の保持増進のために必要な生活行動や疾病の予防について、資料を見たり、自分の日常生活を振り返りながら課題を探そうとしている。 ② 教師や仲間と共に活動したり、教科書などの資料を読んだりして、課題について調べようとしている。 ③ 教科書などの資料をもとに自分の考えや意見をまとめようとしている。 ④ 健康な生活の仕方や疾病の予防について、自分の知識や日常生活等を振り返り、問題点を見つけることができる。	① 健康な生活の仕方や疾病の予防の方法について、資料をもとに、予想したり、整理したりすることができる。 ② 健康な生活や疾病予防について学習したことを日常生活に当てはめて考えることができる。	① 健康は主体と環境から成り立ち、疾病はそれらの要因がかかわりあって起こることを知っている。 ② 健康の保持増進には、生活習慣が深くかかわっていること、それが主な要因となって起こる疾病やその予防の仕方について知っている。 ③ 喫煙、飲酒、薬物乱用の健康への影響と乱用してはいけないことを知っている。 ④ 感染症の要因とその予防の方法について知っている。 ⑤ 個人の健康と集団の健康は密接な関係があること、健康を保持増進するためには、保健・医療機関の有効な利用が必要であることを知っている。
学習活動における 具体の評価規準の例 (小単元)	ア 関心・意欲・態度 ① 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、資料を見たり、自分の生活を振り返りながら課題を探そうとしている。 ② 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、教師や仲間と共に活動したり、自分の意見を述べたりして、課題について調べようとしている。 ③ 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、教師や仲間の意見や教科書などの資料をもとに自分の考えや意見をまとめようとしている。	イ 思考・判断 ① 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、自分の知識や日常生活を振り返り、課題を選ぶことができる。 ② 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、資料をもとに予想したり、分析したり、整理したりすることができる。 ③ 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、学習したことを日常生活に当てはめて考えることができ、適切な意志決定や行動選択について考えることができる。	ウ 知識・理解 ① 喫煙・飲酒・薬物乱用等の行為が健康を損なう原因になることを知っている。 ② 喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけには、様々な心理社会的要因が関係していることを知っている。 ③ 喫煙・飲酒・薬物乱用等の行為をしてはいけないこととその対処法を知っている。

※中学校保健学習では、小単元をまとまりとした授業評価が行われることがあるので、小単元の評価規準の具体例を設けた。

5 学習活動と評価方法の計画

時間	項 目	学習活動	評価方法と規準
1	オリエンテーション 喫煙と健康	☐ 「喫煙・飲酒・薬物乱用と健康」について学習するねらいや何を身につけてほしいか、明確にする。 ☐ 喫煙・飲酒、薬物乱用の実態と課題を把握する。 ☐ 生徒の事前の知識・認識度調査（レディネス調査）を行う。 ☐ 正しい知識をしっかりと身に付ける。 ・ 一斉授業 ・ グループワーク ブレインストーミングやディスカッション、調べ学習 ・ 実験、VTR、コンピュータ スモーキング人形による実験やVTR、コンピュータ等活用	＊ 教師による観察 ＊ ワークシートから ア－①喫煙と健康について、資料を見たり、日常生活を振り返りながら、課題を探そうとしている。 ア－②喫煙と健康について、仲間とともに活動したり、話し合ったり、教科書・資料を読んだりして、課題について調べようとしている。 ウ－①喫煙が健康を損なう原因になることを知っている。
2	飲酒と健康	☐ 正しい知識をしっかりと身に付ける。 ・ 一斉授業 ・ グループワーク ディベートやディスカッション、調べ学習 ・ 実験、VTR、コンピュータ アルコールパッチテストの実験やVTR、コンピュータの活用	＊ 教師による観察 ＊ ワークシートから ア－①飲酒と健康について、資料を見たり、日常生活を振り返りながら、課題を探そうとしている。 ア－②飲酒と健康について、仲間とともに活動したり、話し合ったり、教科書・資料を読んだりして、課題について調べようとしている。 ウ－①飲酒が健康を損なう原因になることを知っている。
3	薬物乱用と健康 ペーパーテスト	☐ 正しい知識をしっかりと身に付ける。 ・ 一斉授業 ・ グループワーク ブレインストーミングやディスカッション、調べ学習 ・ VTRやコンピュータ、リーフレット等の活用 ☐ 新聞記事やニュース等から薬物乱用や保持に関する事例、事件を知り、身近な問題であることの認識をする。 ※ 喫煙・飲酒・薬物乱用の心身や社会への影響に関する知識・理解の程度をテストにより確認する。 ☐ 喫煙・飲酒・薬物乱用等の行為	＊ 教師による観察 ＊ ワークシートから ア－①薬物乱用と健康について、資料を見たり、日常生活を振り返りながら、課題を探そうとしている。 ア－②薬物乱用と健康について、資料を見たり、日常生活を振り返りながら、課題を探そうとしている。 ウ－①薬物乱用が健康を損なう原因になることを知っている。 ＊ テストから（1～3時の総括） ウ－①喫煙・飲酒・薬物乱用が健康を損なう原因になることを知っている。 ＊ 教師による観察

4	課題把握	のきっかけに関わる心理社会的要因について調べ、分析し、課題を明確にし、対処について考える。 ・ 一斉授業 ・ グループワーク ブレインストーミングやケーススタディ、ディスカッション、調べ学習（インタビュー、広告 ポスター、CM、新聞記事等の分析）	* ワークシート・自己評価カードから ア－②喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけや適切な対処について、仲間とともに活動したり、話し合ったり、教科書・資料を読んだりして、課題について調べようとしている。 ア－③喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけや適切な対処について、教師や仲間の意見や教科書などの資料をもとに、自分の考えや意見をまとめようとしている。 イ－①喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけや適切な対処について、自分の知識や日常生活を振り返り、課題を選ぶことができる。 イ－②喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけや適切な対処について、資料をもとに予想したり、分析したり、整理したりすることができる。 ウ－②喫煙・飲酒・薬物乱用等の行為のきっかけには、様々な心理社会的要因が関係していることを知っている。
5	シナリオ作成 ロールプレイング（班別の練習）	◇ 誘惑の場面を設定したシナリオワークシートを通して、適切な対処法について考えたり、工夫したりする。 ◇ ビデオやパソコンを使い、教師が誘い役を演じ、生徒が断り方を考えながらシナリオワークシートに記入する。	* 教師による観察 * シナリオワークシート * ワークシート * 相互評価カード * まとめテスト（第6時授業後）から ア－③適切な対処法について、教師や仲間の意見や教科書などの資料をもとに、自分の考えや意見をまとめようとしている。
6	ロールプレイング（代表者による） ロールプレイング（班別の練習、シナリオなし） まとめ	◇ ロールプレイングや「誘い役」「断り役」「観察者」それぞれの立場からの評価を通して、よりよい対処法について考えを深める。 ◇ 誘惑に負けない適切な意志決定と行動選択が必要性的について考える。 ◇ グループごとに、学習のまとめをした後、教師が全体をまとめ、適切な対処の必要性について助言する。 ◇ まとめのテストをする。	イ－③適切な対処法について、学習したことをもとに日常生活に当てはめて考えることができ、適切な意志決定や行動選択について考えることができる。 ウ－③喫煙・飲酒・薬物乱用等の行為をしてはいけないこととその対処法を知っている。

※資料及び教具については、以下のように取り入れた。

- ①教科書及び喫煙・飲酒・薬物乱用に関わる文献、リーフレット等
- ②新聞記事、VTR、パソコン動画処理ソフト、TVCM、広告ポスター等
- ③実験においては、スモッキング人形・パッチテスト等
- ④シナリオワークシート、学習記録用ワークシート、自己・相互評価カード
- ⑤知識理解度確認テスト、まとめテスト

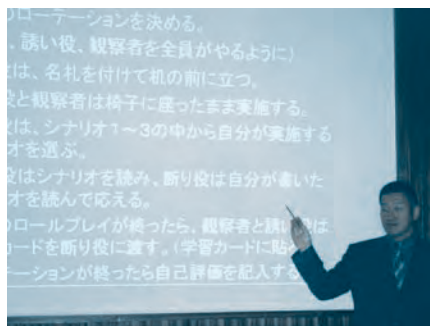
6 展開例（6時間扱いの6時間目）

【ねらい】

喫煙、飲酒、薬物乱用への誘惑に負けない適切な意志決定と行動選択が必要であることを理解し、対処法について考えることができる。

パソコンを使って本時のねらいや学習の進め方を理解させる。

また、ロールプレイングの目的や実施方法などを一斉指導する。



【ロールプレイング2】

- ・ 誘い役は教師が行う。
- ・ 誘い役の演技は臨場感を出しすぎないようにする。
- ・ 観察者は演技者の良かったところを発表する。



【ロールプレイング3】

- ・ 誘い役、断り役、観察を交代で行う。
- ・ 断り役は、評価カードをもとにして自己評価する。
- ・ 断り役はアドリブで応える。

時間	学習活動
10	1 ロールプレイングの目的、学習の進め方を理解する。 ・ 一斉授業（パソコン活用）
15	2 ロールプレイング2 (代表者3人によるロールプレイングを行う) ・ シナリオあり1回 ・ シナリオなし2回 《相互評価》学習カードに記入 ・ 代表者の応え方を観察し、良かった点を発表する。 ・ 演技者は感想、反省を述べる
15	3 ロールプレイング3 (グループ毎・シナリオなし) ・ 誘い役が選んだシナリオに対して演技者はアドリブで応える。 ・ 断り役、誘い役、観察者の役割を交代で行う。 《相互評価》評価カード活用 ・ 観察者は1回のロールプレイが終わるたびに評価カードを断り役に渡す。 《自己評価》学習カードに記入 ・ 観察者から評価カード受け取り、自分の学習カードに貼る。
15	4 適切な対処法について考える。 ・ 誘惑に対してどのように対処したらいいのか、何が大切な、グループで話し合い、発表する。
5	5 適切な対処法についてまとめる。 ・ ワークシートに記入する。
授業後	①ワークシートから思考・判断について評価する。 評価規準：学習したことを基に日常生活に当てはめることがで ②まとめのテストから知識・理解について評価する。 評価規準：喫煙・飲酒・薬物乱用等の行為をしてはいけないこ



教師の支援	評価方法
・ シナリオの確認 ・ ロールプレイングの目的、方法の確認 ・ 代表の3人以外は観察者として、ロールプレイを評価し学習カードに記入するように助言する。 ・ 演技者が、ロールプレイ実施後、工夫した点、困った点等を発表できるように支援する。 ・ 自分の考えがまとめられるよう、一緒に考えたり励ましたりして、関心や意欲を喚起する。 ・ 誘い役の生徒は椅子に座ってセリフを棒読みするように事前に指導しておく。 ・ 演技指導に陥らないように助言する。 ・ 評価カードには良かった点を記入するように助言する。 ・ 評価カードをもとに自己評価させる。 ・ シナリオを複数用意しておく。 ・ ロールプレイ1の反省を生かすように助言する。 ・ 心理社会的要因への対処のポイントが不足していないか確認しておく。 ・ グループワークのあと、教師が適切な対処法についてまとめる。 ・ 実際の場面を想定させ、より具体的な対処法を引き出してやり、適切な意志決定や行動選択となるよう支援する。 ・ ワークシートに記入できない生徒には、ロールプレイの自己評価・相互評価を読み直すように助言する。	評価方法：活動観察 評価基準：ア－③ 学習活動2・3・4・5 【関心・意欲・態度】 《概ね満足な状況》 ・ 仲間の意見を聞いたりしながら、心理状態を振り返り、自分の対処法について考えや意見をまとめようとしたり、発表しようとしたりしている。 《十分満足な状況》 ・ 仲間の意見を聞いたりしながら、心理状態を振り返り、より具体的に自分の対処法について考えや意見をまとめようとしたり、自ら進んで発表しようとしたりしている。 評価方法：ワークシート 評価基準：イ－③ 学習活動2・3・4・5 【思考・判断】 ※授業後に評価する。

ロールプレイング2の評価
《相互評価》 ・ 代表者の応え方の良かった点を発表する。 ・ 何が良かったのか具体的に述べる。(声の大きさや応え方等) 《自己評価》(演技者) ・ 演技者は演技をした感想・反省などを発表する。 ・ 難しかったところ、失敗したところなどを具体的に述べる。

ロールプレイング3の評価
《相互評価》 ・ 観察者と誘い役それぞれが評価する。 ・ 声の大きさや明確さ、断り方などについて評価する。 ・ 良い点を具体的に記入する。 《自己評価》 ・ 観察者と誘い役からの評価をもとにして自己評価する。 ・ よくできた点や改善したほうが良い点などを具体的に記入する。 ☆ 1回のロールプレイが終るたびに相互評価・自己評価をさせることにより、次のロールプレイに反省が生かされるようにさせる。

き、適切な意志決定や行動選択ができる。(イ－③)
ととその対処法を知っている。(ウ－③)

【グループの意見を黒板に書く】
・ 各グループで話し合った内容を黒板に書き、様々な対処法があることに気づかせる。

【適切な対処法をまとめる】
・ ロールプレイで学習したことをもとにして、より具体的な対処法を引き出せるように個別指導をする。 ・ 友達の意見を聞いたり、話し合いをしたりして様々な対処法があることを理解させる。



7 観点別学習状況の評価の進め方

(1) 基本的な考え方

本小單元では、自分の健康は自分で守るため、喫煙・飲酒・薬物乱用の心身に与える様々な影響を十分理解し、そのような行為をしないために、適切な意志決定や行動選択が必要であることを理解させることが大切である。それにはロールプレイング等 参加型の学習活動が適していると思われる。

「知識理解」→「課題把握（心理社会的要因の分析）」→「シナリオづくり（疑似体験）」→「ロールプレイング（自己評価・相互評価を通して適切な意志決定・行動選択の理解）」→「まとめ」とし、実践につながる学習となるよう、学習活動に応じた評価を行う。

前記に示した（p65）小单元の評価規準を「おおむね満足できる」状況とし、それをもとに以下に「十分満足できる」状況を設定し、段階的学習活動に応じて観点をしばって評価を行う。

(2) 「十分満足できる」状況を実現していると判断した子どもの姿の具体例

ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 知識・理解
① 資料を見たり、自分の生活を振り返り、その重要性を考えながら課題を探そうとしている。	① 自分の知識や日常生活を振り返り、問題点を見つけ、仲間との意見交換をしながら、課題を選ぶことができる。	① 喫煙・飲酒・薬物乱用等の行為が健康を損なう原因になっていることを知り、具体例をあげて説明できる。
② 教師や仲間と共に積極的に活動したり、教科書などの資料を読んだりして、課題について意欲的に調べようとしている。	② 教師や仲間と共に、資料をもとに予想したり、分析したり、整理したりすることができ、積極的に課題解決の方法を工夫することができる。	② 喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけには、様々な心理社会的要因が関係していることを知り、具体例をあげて説明できる。
③ 教師や仲間の意見や教科書などの資料をもとにより具体的に自分の考えや意見をまとめ、発展させようとしている。	③ 学習したことをもとに日常生活に当てはめて科学的に考えることができ、適切な意志決定や行動選択について考えることができる。	③ 喫煙・飲酒・薬物乱用等の行為をしてはいけないこととその対処法を具体的に説明できる。

※「努力を要する」状況と判断した子どもの具体的な例は省略

(3) 評価の方法

- ① 「関心・意欲・態度」においては、全ての活動における教師の観察、ワークシートの記入状況等による。
- ② 「思考・判断」においては、グループワーク時の発言やロールプレイング時の演技者としての対応、シナリオワークシートでの記入したセリフ、課題把握時の心理社会的要因の分析・整理状況等、教師の観察やワークシート、まとめテストでの回答から評価する。
- ③ 「知識・理解」においては、グループワークでの発言状況やまとめテスト等から評価する。

教師は、「十分満足できる」「努力を要する」状況の生徒を中心に、評価補助簿等に記載しておく。ワークシートやまとめテストにおいては、授業後に記載された内容等で評価し、観点別評価簿に記載し、单元ごとに総括し、評定へとつなげる。

(4) 「努力を要する」と評価した子どもへの支援について

【健康・安全への関心・意欲・態度】

- ① 対処法の必要性について気付かせ、自ら課題解決に取り組ませるため、自分の日常生活を振り返らせたり、具体的な課題となる場面を想定させ、一緒に考えたり、励ましたりして関心・意欲を喚起させる。

- ② グループワーク時においては、リーダー生徒への働きかけと仲間同士での支援依頼をし、その生徒を巻きこみ、参加意欲を高めていく。

【健康・安全についての思考・判断】

- ① より具体的な資料を個別に提示し、仲間の意見を聞くことを進めたりして、一緒に予想したり、分析したりできるようにする。
- ② 喫煙・飲酒・薬物乱用等の誘いの実際の場面を想定させ、より具体的な対処法を引き出してやり、適切な意志決定や行動選択ができるように支援する。

【健康・安全についての知識・理解】

- ① 教師や仲間の意見や教科書等の資料等をもう一度見直させたり、確認させたりして、生徒の理解の程度に応じて補足説明をして理解できるようにする。
- ② 喫煙・飲酒・薬物乱用について個別に身近な事例から考えさせ、健康の大切さや乱用してはいけないことの重要性を主体的に理解できるように支援する。

8 評価を進める上での留意事項

- (1) それぞれの授業において観点ごとに評価したものを、加算する方法で小単元の評価を行う。その際、第5・6時の「ロールプレイング」における「思考・判断」に関する評価の重み付けを持たせる。そのため2倍として計算する。
- (2) 「知識・理解」に関しては、単元終了後のテストに重み付けを持たせる。そのため2倍として計算する。
- (3) 毎時間、全ての観点を評価するのではなく、評価する観点を絞り込む。

9 観点別学習状況の評価の総括

観点別評価簿（喫煙・飲酒・薬物乱用と健康）

生徒	評価の観点	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	テスト	平均 得点	観点別 評価
あ	ア関・意・態	◎	○	○	○	◎	◎	－	2.5	A
	イ思・判	－	－	－	○	○×2	○×2	◎	2.1	B
	ウ知・理	◎	◎	◎	○	－	○	◎×2	2.7	A
い	ア関・意・態	◎	◎	◎	○	△	△	－	2.1	B
	イ思・判	－	－	－	○	△×2	△×2	◎	1.5	C
	ウ知・理	○	◎	◎	◎	－	△	◎×2	2.5	A
う	ア関・意・態	△	△	△	○	◎	◎	－	1.8	B
	イ思・判	－	－	－	◎	△×2	△×2	○	1.5	C
	ウ知・理	○	○	△	○	－	△	△×2	1.4	C
え	ア関・意・態	◎	◎	○	◎	◎	◎	－	2.8	A
	イ思・判	－	－	－	○	◎×2	◎×2	○	2.6	A
	ウ知・理	○	○	○	◎	－	○	○×2	2.1	B

【◎十分満足の状況＝3点、おおむね満足の状況○＝2点、努力を要する状況△＝1点】

※観点別評価の判定の目安（例） A＝2.5以上 B＝2.4～1.6 C＝1.5以下

10 ロールプレイングの進め方と評価

(1) ロールプレイングの進め方

①ロールプレイングのねらい

喫煙・飲酒・薬物乱用等の行為は個人の心理状態や人間関係，社会環境が影響することから，それらの誘いに対して適切な意志決定と行動選択が必要であることを理解する。

②ロールプレイング実施上の注意点

- 1回のロールプレイは2分以内とする。
- 楽しくやっても良いが，問題を誇張させたり，横道にそれたりしない。
- 友達の言動に対して，間違っていたとか，正しかったという判断はしない。
- 「誘い役」生徒にはやらせない。

通常のロールプレイングでは，誘い方の学習になることを避けるために，「誘い役」は生徒にさせない。そのため，小グループでの練習では，誘うせりふを録音・録画したテープやコンピューターの使用等の様々な手立てが取られる。しかし，機材準備の煩雑さや若干の不自然さなどの課題が残る。そこで今回のロールプレイングでは，下記の点を事前指導し，練習中にも留意しながら，生徒に誘いのせりふを棒読みさせた。すなわち，テープレコーダの代役をさせるに留めたわけである。

なお，この試みにより，生徒が誘い役を現実的に演じる，生徒の注目が誘い役に集まる，授業の緊張感が損なわれる等が懸念される場合には，行うべきではない。

「誘い役」のせりふを読ませる上での事前指導，および練習中の留意点

- 目的は，誘い役を演じるのではなく，断り役の対処法の向上であることを確認する。
- 臨場感を出さないために，生徒は座ったまま誘うせりふを読む。
- せりふは抑揚をつけずに棒読みする。
- シナリオを自分の顔の前に持ち，相手の顔を見ないで読む。

③準備するもの

- パソコン（パワーポイントで実施方法を掲示する。）
- たばこ，酒，薬物の模型
- 役割が書いてある名札（首から掛けた。）
- ワークシート・相互評価カード
- のり（相互評価カードを貼る）
- 移動式の黒板 等

④ロールプレイングの展開

時 数	区 分	学習活動と支援のポイント
第 5 時	①シナリオ作成	○誘惑の場面を設定したシナリオワークシートを通して、適切な対処法について考えたり，工夫したりする。 ○ビデオやパソコンを使い，教師が誘い役を演じ，生徒が断り方を考えながらシナリオワークシートに記入する。 △シナリオに記入した「断り方」が適切かどうかグループで話し合い，考えさせる。
	②ロールプレイング 1 (班別ロールプレイング・シナリオあり) ※1グループは4人で行う。	○グループ内で「誘い役」「断り役」「観察者」を分担し，ローテーションしながら全員が役割を経験する。 △「誘い役」は椅子に座ってシナリオを棒読みし，臨場感を出さないように指導する。 △「観察者」と「誘い役」は「断り役」の人に相互評価カードを渡し，「断り役」は自分の学習カードに渡されたカードを貼り自己評価に生かす。 △相互評価カードには「断り役」の良かった点について具体的に記入するよう助言する。
第 6 時	③ロールプレイング 2 (代表者によるロールプレイング・シナリオあり 1 回，シナリオなし 2 回) ※「誘い役」は教師が行う。	○代表者以外の生徒は「観察者」として良かった点を発表し，学習カードに記入する。 △シナリオ無しで行う時は，「誘い役」の教師が様々な角度から「断り役」にゆさぶりをかけ，適切な対応の難しさや，それを克服する効果的な対処法について実感させる。 △ロールプレイングの時に本物のたばこや酒等を使用しない。
	④ロールプレイング 3 (グループ毎・シナリオなし)	○「誘い役」が選んだシナリオに対して「断り役」がアドリブで応える。 ○グループ内で「誘い役」「断り役」「観察者」を分担し，ローテーションしながら全員が役割を経験する。 △演技指導に陥らないように注意する。 △心理社会的要因への対処のポイントが不足していないか確認する。
	まとめ (ブレインストーミング)	○適切な対処法についてグループ毎に話し合い，代表者が黒板に記入する。 △良い対処法が思い浮かばない生徒には，学習カードを見直すように助言する。 △黒板に記入された対処法を整理し，様々な対処法があることを理解させる。 △これからの自分の生活に当てはめ，適切な意志決定と行動選択が必要であることを助言する。

(2) ロールプレイングの評価

授業中に40人近い生徒を評価規準に照らし合わせて評価するのは大変困難なことである。そこで、以下の要領で評価した。

- 授業中は「関心・意欲・態度」のみ1観点において「十分満足できる」状況を実現していると判断した生徒と「努力を要する」と判断した生徒のみ「評価補助簿」に記入した。
- 授業後は活動中の教師が支援した時の反応や生徒の活動の様子などを思い出して評価補助簿に記入した。
- 「思考・判断」については、授業後、ワークシートの記入状況をもとに判断し評価した。
- ロールプレイング毎に自己・相互評価を行い、次のロールプレイに生かせるようにした。
- 自己・相互評価では評価規準にとらわれず、様々な角度から良かった点を評価し、意欲づけを図った。



11 ワークシート等

喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけを考えよう！

年 組 氏名

- ☆ 中学生がたばこを吸ったり、お酒を飲んだりする時のきっかけにはどんなものがありますか。考えられることを挙げてみよう。

- ☆ 薬物乱用のきっかけにはどのようなケースがあるか挙げてみよう。また、その時の心理状態はどうでしょうか。

- ☆ 喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけとその時の心理状態や背景で共通することを挙げてみよう。

- ☆ 今日の授業で感じたこと、考えさせられたことを書きましょう。

★自己評価しよう★

評価内容	自己評価	反省	先生から
自分の意見を積極的に述べることができたか 【関心・意欲・態度】	A B C		
友達の意見を聞いて、自分の考えを深めることができたか。【思考・判断】	A B C		
喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけや心理・背景について理解できたか。【知識・理解】	A B C		

喫煙・飲酒・薬物乱用の誘惑に負けない！ 意志や行動について考えよう！

年 組 氏名

☆ たばこや酒のしつこい誘惑に対し、あなたならどうしますか。

☆ VTRの誘惑に対処してみて、どのような感想を持ちましたか。

☆ 効果的な断り方や対処法には、どのようなものがあるだろうか。

☆ シナリオワークシートにセリフを記入して、どのような感想を持ちましたか。

★自己評価しよう★

評 価 内 容	自己評価	反 省	先生から
自分の意見を積極的に述べることはできたか。【関心・意欲・態度】	A B C		
誘いに対する断り方を工夫することができたか。【思考・判断】	A B C		
誘いに対する効果的な断り方や対処法について理解できたか。【知識・理解】	A B C		

喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する知識・理解度テスト

- 1 喫煙が身体に及ぼす悪影響について、たばこに含まれる有害物質を具体的に挙げて、説明しなさい。

--

- 2 過度の飲酒が身体に及ぼす悪影響について、具体的に説明しなさい。

--

- 3 覚せい剤、大麻などの薬物乱用が身体に及ぼす悪影響について説明しなさい。

--

- 4 薬物乱用が法律によって厳しく禁止されている理由を、健康への悪影響以外の視点から述べなさい。

--

- 5 次の語句について説明しなさい。

- (1) 受動喫煙
()
- (2) アルコール依存症
()
- (3) 耐性
()
- (4) フラッシュバック現象
()

【1～4は各20点、5は各5点、合計100点】

年 組	氏名	点
-----	----	---

自己評価、相互評価のポイント

相互評価カード

評 価	良かった点
声の大きさや明確さ (A・B・C)	
断り方 (A・B・C)	

「観察者」「誘い役」は、相互評価カードに良かった点等を記入し、「断り役」に渡す。「断り役」は自分の学習カードに貼って自己評価に役立てる。

【自己評価・相互評価】

自己評価、相互評価を行うに当たっては、評価規準にとらわれない「個人内評価」が効果的です。

自己や他者の良いところを見つけ様々な視点から評価することにより、生徒の学習意欲が高まり、活動も活性化します。

また、相互評価により、複数の友達から評価されたことを参考にしながら自己評価することにより評価の客観性も高くなります。

※自己評価・相互評価は、あくまで次の学習活動や教師の指導に役立てるためのものであり、評定を出すためのものではありません。

☆ ロールプレイ 1 (班別ロールプレイ・シ

観察者からの評価を貼ろう。

【自己評価】良くできた点や改善したほうがよい

☆ ロールプレイ 2 (代表者によるロールプ

断り役	

ロールプレイ 3 (班別ロールプレイ・シ

観察者からの評価を貼ろう。

【自己評価】良くできた点や改善したほうがよい

★誘惑に対してどのように対処したらいい

けない意志や行動を身につけよう！

年 組 氏名

ナリオあり)

誘い役のシナリオを読んだ
友達からの評価を貼ろう。

と思った点を書きましょう。

レイ)

《良かったところ》

ナリオなし)

誘い役のシナリオを読んだ
友達からの評価を貼ろう。

と思った点を書きましょう。

のか、何が大切か書こう。

相互評価カードを参考にしてよくできた点や改善したほうがよいと思ったことを具体的に書く。

ロールプレイ 2. 3 に反省が生かせるようにする。

教師が「誘い役」になり、代表者である 3 人の生徒が「断り役」になる。それ以外の生徒は各代表者の断り方を観察し、各演技後に、良かったところを自分の学習カードに記入する。

【例】

- はきはきとしゃべっていた。
- 断り方が明確だった。
- 大きな声で断っていた。
- うまく相手进行かわしていた。
- 納得いく断り方だった。
- 強い意志が感じられた。 等

グループで話し合った「対処法」について、数多くの方法を考える。

「対処法」は、たくさんあり、大切なことは自分の身を守ることであることを理解できるようにする。

【例】

- あいまいな断り方はせずに、きっぱりと断る。
- すぐに家族や先生などに相談する。
- 誘われそうな場所へは行かない。
- 運動や趣味を楽しみ、ストレスがたまらない生活を心がける。
- その場から逃げる。 等

シナリオ1 《たばこ編》

夏休み初日、部活動も休みなので、AさんはBさん、Cさんと3人でBさんの家で遊ぶことになった。家の人は留守で夕方まで帰ってこないそうだ。しばらくゲームなどで遊んだ後、Bさんがたばこを取り出した。BさんはCさんに「吸ってみない」とたばこを差し出した。Cさんはすこしためらっていたが、Bさんの誘いもあってたばこに火を付けた。そして、次はAさんに……。

Bさん：試してごらんよ。

Aさん：

Bさん：なんで吸わないの。

Aさん：

Bさん：少しぐらいタバコ吸ったって、体には影響ないよ。

Cさん：そうだよ。友達でしょ。一緒に吸おうよ。

Aさん：

Bさん：やせられるよ。イライラしているときなんてスカッとするよ。

Aさん：

Bさん：悪い事とわかっているから、おもしろいんだよ。吸ってごらんよ。

Aさん：

シナリオ2 《酒編》

Aさんは体育祭の実行委員長として活躍した。体育祭も大成功に終わり、実行委員のBさん他全員が満足感でいっぱいだった。その打ち上げパーティーをBさん宅で開くことになった。そこには昨年の実行委員長だった先輩も参加し大いに盛り上がった。すると先輩が酒を持ってきて……。

先輩：酒で乾杯しようよ。

Aさん：

Bさん：打ち上げだからいいじゃないか。先輩が持ってきてくれたのだから。

Aさん：

先輩：いい気分になるよ。おいしいぞ。

Aさん：

Bさん：みんなと一緒に飲むから平気だよ。

Aさん：

シナリオ3 《薬物乱用編》

テストも終わり、開放感にひたりながら、AさんとBさんは町に遊びに出た。
Aさんは昨夜、親から成績のことや進路のことで叱られ、ケンカになっていた。
繁華街を二人でふらふら歩いていると、見知らぬ人が近づいてきて、なにやら小さな包みをこっそり見せてきた。

見知らぬ人：いいものあげるよ。ただでいいよ。

Aさん：

見知らぬ人：Sだよ。いやなこと忘れられるよ。スッキリするよ。

Aさん：

見知らぬ人：1回だけなら大丈夫だよ。

Aさん：

見知らぬ人：気持ちよくなるぜ。疲れもとれるぞ。

Bさん：少しぐらいなら大丈夫だよ。一緒にやってみようか。

Aさん：

見知らぬ人：おれも使っているけど、楽しいぞ。

Aさん：

本書は、文部科学省補助金による学校保健センター事業として、下記の財団法人日本学校保健会に設置した「保健学習推進委員会」で作成したものである。

『保健学習推進委員会名簿（平成14～16年度）』

○印 各部会のチーフ

	委員長	和 唐 正 勝	宇都宮大学教育学部 教授
	副委員長	野 津 有 司	筑波大学体育科学系 助教授
	副委員長	高 橋 浩 之	千葉大学教育学部 教授
(小学校部会)	委員	柏 葉 清 志	東京都大田区立開桜小学校 教諭
	委員	佐 藤 博 志	埼玉県さいたま市立上落合小学校 校長
	委員	下 村 義 夫	岡山大学教育学部 教授
	委員	富 岡 寛	神奈川県川崎市立上作延小学校 教諭
	○委員	野 津 有 司	筑波大学体育科学系 助教授
	委員	森 良 一	栃木県教育委員会保健体育課指導主事 (前宇都宮市立上戸祭小学校 教諭)
	委員	渡 邊 正 樹	東京学芸大学 助教授
(中学校部会)	委員	青 木 孝 子	東京都葛飾区立堀切中学校 教頭
	委員	赤 田 信 一	静岡大学教育学部 助教授
	委員	荻 原 芳 彦	山形県米沢市立米沢第一中学校 教諭
	委員	加 藤 隆 司	東京都江東区立深川第四中学校 主幹
	委員	長 岡 佳 孝	山形県教育庁スポーツ保健課指導主査兼学校保健係長
	○委員	西 岡 伸 紀	兵庫教育大学生活・健康系教育講座 助教授
	委員	横 嶋 剛	宇都宮市教育委員会学校教育課 指導主事 (前宇都宮市立一条中学校 教諭)
(高等学校部会)	委員	植 田 誠 治	茨城大学教育学部 助教授
	委員	戸野塚 厚 子	宮城学院女子大学学芸学部 助教授
	○委員	高 橋 浩 之	千葉大学教育学部 教授
	委員	齋 藤 文 夫	茨城県教育庁保健体育課指導主事
	委員	長 岡 知	千葉県立若松高等学校 教諭
	委員	丹 羽 眞樹子	千葉県私立麗澤高等学校 教諭
	委員	松 中 直 司	埼玉県立上尾東高等学校 教諭

本資料は、主として上記中学校部会が作成に当たり、文部科学省スポーツ・青少年局体育官戸田芳雄のほか、下記の方々から多大のご援助とご助言をいただきました。

鬼頭 英 明	文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課	健康教育調査官
采女 智津江	文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課	健康教育調査官
大竹 輝 臣	文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課	専門官

中学校保健学習の指導と評価

— 授業計画の作成から評価までの実際 —

初版 平成16年2月26日

発行者

財団法人 日本学校保健会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-3-17

虎の門2丁目タワー6階

☎03(3501)3785・0968

印刷所

大東印刷工業株式会社

